

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

2003年5月1日発行

# 露宿

第24号  
Rojuku



定価 500円

## 露宿

## 目次

表紙写真	金瀬眽	
文中写真	岡田知子	
さくらが咲いています	城野昌夫	2
ホームレス雲水	富士森和行	3
羽賀さんを偲ぶ	本田徹	5
ヤマの幽霊（下）	羽賀勝義	6
私の雑記から其の二	いさむ	19
ああ桂浜	弓削鴻介	20
霧子と言う女	入矢剛弓	
五行詩	近松雅之	
露宿から平和えの祈り、		
平和えの叫び	田代猛	21
詩集「エロスの廃園」より	望月大成(挿し絵も)	23
無題	五林修	25
朝太郎の箱船	鈴木克彦(挿し絵も)	27
分化帝国主義	秋戸空	30
さくら満開 疲労満開	只野醉払	31
無題	名無しの権兵衛衆	34
画	悔古	35
あかい花	はり師いが丸	36
水道町より	高橋美香	37
おきなわ旅日記～海～	恩田美代子	38

# さくらが咲いています

城野昌夫

きのうは代々木の桜を  
みました。

その日は上野の森で夜桜にまぎれて  
しらせうたをきました。  
今日は六本木のそめい吉野を  
ながめながら

おもいでめぐりをする。

それから雨のうえのPARKでは  
夕やみの歌声をくちずきみました。  
二度の登場であります。  
まちわびた花びらがさいています。

(暗い世相に淡く咲くのが  
うれしいのです。)

わたくしは

おかあさんをおもいだして唄う。  
小笠原ではみられない花が  
ここではさわやかに

映えてします。

雨が止んでおくれましと  
願いのそんぐが

ひびく  
につぽんはよい国と

おもわなければと  
心にきざみました。

一 東京都台東区上野の上野公園にて  
一九九五・四・七 一八：〇五



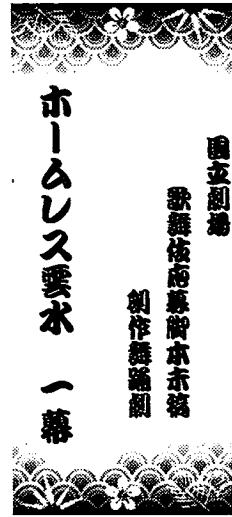
## ▲おぼえがき▼

一九九四年十一月から一九九五年三月までの五ヶ月間、詩作活動を中断していましたが、上野公園の夜桜を見ながらうたを聞いていたらば、ふと詩がうかんできました。

一九九五年十一月から一九九五年二月まで埼玉県比企郡玉川村でお仕事していました。

一九九五年二月下旬には小笠原にもいってきました。それから東京の南千住暮し、埼玉だまらないままのうためぐりであります。

「城野昌夫詩集（森羅万象）旅路うたもよう」より



# ホームレス雲水 一幕

セリフ

如何に流れの身とは云へ明日は野末の露と消ゆ、傍  
なき浮世に永らへて唄さだめぬ旅の鳥 身は雲水を  
纏へども早や置く霜の白きさへ流るゝ水の涼るらん。

「とは云え野辺の芒にも、すぐ蟲の音絶えだえに世  
を捨てし身は厭わねど

茲は武藏野、野火止のせゝらぎ徳ぶ東のまをせめて  
悲しき清瀬の里の遠き灯影の身をゆする風がもて来  
る金の唄

旅のホームレス、よろしく料し恩入れあつて、中央赤松の木立に  
寄り踊り唄を聴く、里のわらべ男と詠み踊り出す

長唄、二上りの踊り地になる

ハ旅ノ衣に相應しき身は、いつしか雲水の姿に馴れて、  
さだめ無き世の習ひにや

高き梢の赤松の夢もなつかし中里の火の花

祭りの笛太鼓、君と逢ふ瀬の令の手の  
風に流れてヨー、ソレ身を責める

ヨーイ、ヨーイ、ヨイトナ、ソレ

ハその昔のわれも病みたる勞咳を嘆きつゝ行く綱代笠、  
身は雲水にあらねども孤り身過ぎの風立ちて猶、救

ひなき世に生きて晒らす 因縁の踊り唄

遠く近く金浦りの笛太鼓、流れくる、ホームレスの男  
當時を想い、遙、浮れ出だが、ふと感情を抑制する。

花道より、雲水僧よろしく一人のホームレス出て来り七三にて思い  
入れ合つて時の鐘鳴ると、

へさらす砧の瀬はなけれども

多摩の砧の希晒し唄ふ、ふし節伝へ来て

踊り明せし夜の宴、更けて残懾の月となる

佛果の縁に繋れど

へ晒す細布、わが身の如く

打れうたれて野火止の瀬音とならむ踊り唄

ほんに浮世の戯れ唄や

兎角、想ひは月の夜の旅は果てなき老いの杖

と、よろしく斜し、片手にて波を拭い、上手に上りし月を仰ぐ

又、時の鐘ふる 里のわらべ、この時下手へ走り去るー

へ盡きぬ想ひの里の月、後生の途のひと筋にわれの旅

路のよすがぞと

未明の闇に罪とがを隠す涙の露衣まぎれてこそは果

し得ぬ

思ひ止めさまよつり  
思いとどめてさ迷へり

男、舞台中央にて笠を被り上手よりの月を見る  
この情景よろしく、折がしら打つ途端

令子となり 幕でりる。

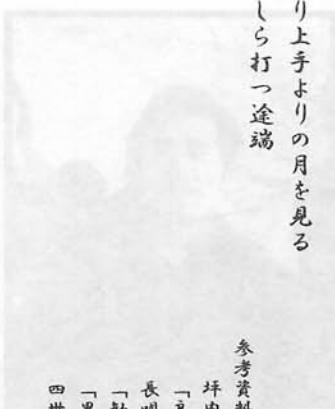
参考資料

坪内逍遙・作

「良寛と子守」「お夏狂乱」

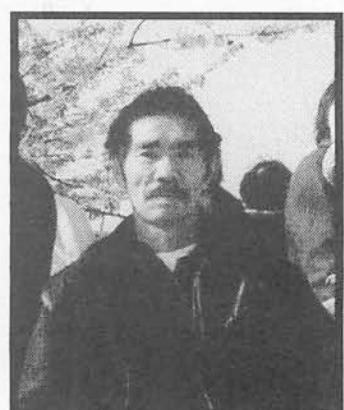
長唄全集より  
「勧進帳」「隈取安宅松」「越後獅子」

「黒塚」「時雨西行」等  
四世井屋佐吉の「黒塚」の作趣影響大なり



## 羽賀さんを偲ぶ

本田 織



「ヤマの幽霊」の作者・羽賀勝義さんは、一九四五年（昭和二〇年）七月二十五日に生まれ、今年二〇〇三年一月九日、午前一〇時四〇分、私が勤務する、東京都葛飾区の堀切中央病院で永眠されました。筋萎縮性側索硬化症（ALS）という、神経系の不治の病を約三年間患い、身体の自由を完全に失った末のことでした。

彼の過去について私はほとんど知りません。たぶん、一九八四年、山谷に当時できたばかりの山友会の無料診療所（山友クリニック）を、私がボランティアの医師としてお手伝いをしていました。彼が患者さんとして見え、お会いしていたのです。そのころ献身的に山友クリニックの活動を支えていた、メリノール会のシスターで看護婦でもあるリタさんなどを、彼はよく覚えていて、彼女が昨年末再来日したら三人で会うのを私たちは楽しんでいました。結局果たせませんでしたが。。。

「ヤマの幽霊」が、恐るべき迫力と筆致で描き出しているアルコール中毒者の世界は、羽賀さんが三〇歳代に実体験したことに基づくものだと思います。カルテによると、彼は三二歳から三年間はアオカン（野宿）生活をしていました。精神的にも肉体的にもどん底の彷徨生活を幾年も続けた末に、彼はメリノール会のミニー神父によって、日本で初めて山谷の地に創られたAA（匿名アルコール中毒者の会）という、アルコール中毒者の自助グループ

の行う治療プログラムに辿り着き、救われます。それから、自立し、ダンプの運転手として、一九九〇年代を通して、働いていましたと聞きます。九年一二月になって、車のブレーキやアクセルが、上手に踏めなくなつたことに彼は気づきます。これが病気の最初の兆候でした。その後、階段を上つたり下りたりが大変になりますなど、症状がどんどん進行し、仕事もできなくなつてきます。二〇〇一年夏、三井記念病院で病気の診断が確定し、彼はヤマに戻ってきます。コスマス看護ステーションの心優しい看護婦たちや荒川区役所の良心あるケースワーカー、何人ものボランティアたちに支えながら、彼は山谷の地で最後まで生き抜くことを欲していました。その希望をかなえてあげられず、結局は病院のベッドで死なせてしまうことになりました。

彼に「露宿」を見せて、投稿してみたらと勧めたのは、去年の九月ころだったと記憶します。しかし、彼は、当初、山谷マックでミニーさんたちに出会い、アルコール中毒から離脱していく過程・体験だけは絶対に書き残したいと思つていました。そこまで、書き進んだら、まとめて本にする気もあつたようです。実際、秋ころまでは、アパートの自室で、そして入院後は病室のベッドサイドで、障害者用のコンピュータに向かい、一日二時間くらいは、ゆっくり一字一字刻み込んでいました。しかし、一一月末には座ることもできなくなり、最後に残された左親指の力も、パソコンの特殊な入力用センサーを操るには足りなくなつてしましました。さすがに原稿の完成に自信がもてなくなつたのか、できあがつた分だけの発表を決心してくれたのです。

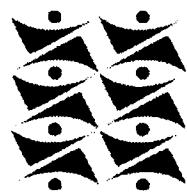
「露宿」の巻頭を飾る彼の文章が載ったとき、私は感激と、申し訳なさの気持ちでいっぱいになりました。彼はどんなにこの雑誌を見たかったことでしょう。しかしそれも間に合わなかつたのです。今はただ、ワンカップと「露宿」をお供えして、笑顔の飛び切りすてきだつた羽賀さんのご冥福を祈るばかりです。

（写真提供／NPO法人訪問看護ステーション コスマス）

# ヤマの幽霊

(下)

## 羽賀勝義



俺は二十七歳まで何回警察にお世話をなったか。東調布警察、世田谷警察、玉川警察、成城警察、北沢警察、皆飯場にいつた時お世話をなった警察だ。特に多いのは東調布警察と北沢警察だ。罰金も最初は九千円で最後は十万円。その頃の暴行傷害の罰金では一番上だったかも。しかし暴れん棒だった俺が浅草、下谷、荒川、千住、の警察には酔っ払って車に飛び込んで浅草警察に保護されたぐらいだ。

俺は山谷地区が好きだ。今でもその気持ちに変りはない。暴れん棒の俺を知っているのはもうヤマにはいない。滝に飯場に行かないかと誘われたが断つたが、あの時飯場に行つていれば幻聴、幻覚に襲われる事は無かつたかもしれない。日吉の恐怖があつて、いまだ動きがとれなかつた。「飯場帰るけど来週また来るから考えておいてくれ」「たいした金じやないと」とポケットに五千円入れてくれた。この義理で奴の飯場に行くことになる。驚くのは日吉から帰つてまだ完全な文無しになつてない事だ。

またお金が増えた。前の千円を入れると六千円になる。又飲み始めた。お金が増えたせいで、何と無く落ち着きが無くなつた。握り飯とウイスキーを分けて袋に入れてフラフラン歩き出した。もうお昼は過ぎている。あちこちで宴会をしている。その時の俺は宴会に加わる気はあまり無く側を通るだけだ。あさひ会通りまで行つて大通りを駅の方へ歩いた。やっぱり何個所かで宴会

をしている。途中座りウイスキーを飲んだ。座つたり歩いたり落着かない。また、酔つて来た。元の所へ帰ろうと歩こうとしたら立てない。ウイスキーは、もう無い。持ち酒はもう無い。握り飯とつまみだけだ。目を半分開けて横になつていた。こういう状態の時は、すぐには眠らない。通る人間の足を見ながら横になつてゐる。

暫くして立つて見た。なんとか歩けそうだ。俺の姿は酷い物だつたと思う。髪は伸び、洋服も汚れた。身体も臭いはずだ。そんな所にあの幽霊叔母さんが声をかけて来た。この顔見る度に日吉を思い出す。恐怖の顔だ「腹がへつた」と言う。迷わず握り飯の袋を渡したら喜んで一個食べながら何處か仲間の所へ歩いて行つた。暫くしてウツラウツラしている所へ、「兄さん」つて大きな聲で呼ばれた。薄く目を開けたら五人程立つていて、男三人女が二人、俺の前に立つていて。そして「おにぎり有り難とう。良かつたら少しだけど飲むかい」。出したのが二合瓶に少し残つた焼酎だ。ポケットを見たら百円玉が五、六個出てきた。それを前に置いて飲んだ。かつこうつけるのもお金の有るうちだけだ。「俺達金が無い」と。「気にするな」と言つて、また一口飲んでつまみも前に出した。買ひに行くと若い方の女性が言つてお金を数えていた。そして「四合瓶と二合瓶が買える」と喜んでいた。男に「四合だけにしたほうがいいんじゃないかな」と言つてはいた。日曜日なので開いてるかどうか気になつたが、そんな心配いらなかつた。直ぐ帰つて来た。皆嬉しそうだ。つまみも沢山ある。もう夕方だつたと思う。回りも薄暗くなつて來ていた。俺はやつぱり落書きかない。親しい顔は見当たらぬ。少し飲んで行けと誘われて、一口飲むりして来ると言つて歩き始めた。まずセンターへ向かい裏道を通りてパレスの横に出て大通りを渡つた。明治通りへ出て少し歩いて又裏道へ入つた。センターのちょうど裏で四、五人で集まつて飲んでいた。横を通つたら兄さんと呼ばれた。顔を見たらあまり親しい顔は見当たらぬ。少し飲んで行けと誘われて、一口飲むと「この間は有難う」といわれた。この前、ウイスキーを一口ずつ飲んだ連中が何人かいるらしい。二合瓶か三本ぐらいを飲んで

居る、少しづつ飲んだ焼酎が効いてあまり寒く無い。普通の人はお金に余裕があると落ち着きが出るが、俺の場合逆で落ち着きが無くなる。余裕と言つても六千円ぐらいだが、其の時の俺にとつては余裕が出る金額だ。この後十円玉一個無い日々が来る、暫く座つてまた歩き始めた。センターの前を通つたら、もう焚き火が付いて居た。その中に親しくは無いが話はした事がある顔が有る。ヨツテ声を掛けたら、只うなすくだけだった。元気が無いなと思ひながら通り過ぎた。気になつてしまふが無い。アルコールが切れたかと思い買いに行く事にした。日曜のせいも在つて立ち飲みと両方やつている所は休みで、後は知らない。アル中の俺が酒も買えない。俺はこれには驚いた。立ち飲みと回し飲みが多いので買つて飲んで無いので酒屋の場所が分からぬ。センターに戻つて奴を呼んで千円渡して買えるだけ買つて来るよう頼んだ。いろは通りの方へ行つた。俺はたき火にあたつたが、皆元気が無い。後で俺もそうだが一銭も無く体力も無くなつたら早く焚き火をするしか無い。そうすれば最後まで焚き火にあたつていられ、瓶が回つて来たら飲めばいい。奴が一升瓶を持つて帰つて来た。口を開けて一口飲み、そして皆に回したら、元気が出たようだ。人も増え始めカンパも四五百円に成つたので二回目の買い出しに行つた。休みでも裏から売つてくれるらしい。まだ時間は早いのに宴会は盛り上がりは早く、市内の仕度が始まり出した。

俺にとつて玉姫は、進行のプロセスと回復のプロセスの両方の思い出の場所だ。山谷全部そつだが、玉姫は沢山の良い方悪い方の思い出の詰まつた場所だ。

もう四時を回つたと思い、起き上がりセンターに向かつてタオルではらまきをして手をポケットに入れヨタヨタ歩き始めた。パレスの前に出た。大通にも人が増えて来た。ヤマの一一番活気のある時間帯だ。俺も何年か前迄はこの雰囲気を楽しんでいた。酔っ払つてゐる俺を見ても誰も声を掛けて来ない。仕事師達はこの時間酔つ払つてゐる奴に声を掛ける暇は無い。センターは入る隙が無いほど人が沢山集まつてゐる。パレスの入り口の横へ座つて立つた。酔つてゐるから立ち飲みはその日は余り入りたく無かつた。俺も一応仕事着を着て足袋も履いているが、朝から飲んで酔つ払つた方が良い」俺は満足していた。俺はこの考え方とは反対にその所で何人か集まつて飲んでいた。顔を見たが親しい奴はない、飲み物もあまり無い。裏道を玉姫の方へ歩いた。昼の連中がまだ飲んでいたので側へ行つたら大歓迎された。玉姫でこんな長い宴会はめつたにない。座つて瓶が回つて来た。早速飲んだ。集まつ

ているお金があまり無い。俺は千円を出した。皆ほつとした雰囲気だ。俺もそうだけどアル中は長い時間飲める。二人が買いに出かけた。残つたのを回してた残りも少しの時、一人の男が「これ飲んで」と半分ぐらい入つた四合瓶を置いて行つた。誰かがお礼を言つた。買いに行つた奴らが一升瓶を持って戻つて來た。又盛り上がり、うきうきしたのを覚えてゐる。この後は覚えて無い。大分酔つて朝がた目が覚めた。心配でポケットを探つたら、残り三千円だ。後で又出したらしい。まだ飲んでいるから俺も手を出して一口飲んだ。何時だと聞いたら三時過ぎたと言う。大分寝た。少しの間飲んで少し又横に成つた。今度は、寝ない寒さを感じて来た。薄目を開けて見たら、公園の中だけで路上店舗を出す泥棒市の仕度が始まり出した。

## 路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

パチンコ屋の前で暫く座つていた。段々人も少なくなつて来た。千葉の飯場の親父が「もう一人だけ行かないか」声を掛けて来た。俺が黙つていたら「大分余裕が有るみたいだな」と笑いながら離れて行つた。これからは飯場の手配師の出番だ。もう七時を過ぎ、回りには人も少なく成つて来た。世界も開いた。今度はアル中じや無くとも、ただの飲兵衛がウロウロしだす。その時間の流れを俺は虚ろな目で見ていた。そしたら俺達アル中が三人残つた。俺は世界に行つて四合瓶を買って、皆には何も言わず一人で飲んでいた。三分の一ぐらい飲んでから皆に声を掛けたら「待つてました」とばかり皆寄つて来た。お金は七十円ぐらいしか集まらない。俺も二百円出した。もう残り二千円しか無い。俺は昨日からずいぶん宴会を作つた、直ぐ瓶が空になつた。二合瓶を買いに一人行つた。その頃二百十円だつたと思う。四人だから直ぐ無くなる。俺はその場から離れいつもの場所へ向かつた。ヨロヨロ、フランフランにも倒れそうで、やつと辿り着きホットして座つた。チャンピヨンの車が来ていたのは覚えてる。そのまま暫く寝てチャンピヨンの車も無かつた。何時ごろか検討も着かない。ポケットには二千円と百円玉四個ぐらい残つてゐる。大通りへ出て世界へ向かつたがまだ頭はボーとしている。途中にも立ち飲み屋はあるが、真っ直ぐ世界に向かつた。マンモスの時計を見たら三時をまわつていた。世界に着いて焼酎をゆづくり飲んだ。二杯飲んで効いて来た。朝の連中は誰もいない。回りが薄暗く成つて、立て見たら歩けるので、玉姫へ着いたが誰もない。また座つた。歩くのが段々辛く成つた。辛い訳だ日吉の前も帰つてからもろくな物を食べて無い。体力も無い訳だ本当に食べた記憶が無い。良く命が持つてゐる。



回りをよく見たらあつちこつちに座つてゐる。顔を一通り見てから、あさひ会通りの方へ向かつた。大きな店で真横に立ち飲みする所があるところに入り、一杯をゆっくり飲んだ。表の店は閉め始めた。残りを飲んでまた歩き始めた。大通りに出で駅の方に歩いた。マンモスの前の時計を見たら八時半を回つていた。パチンコ屋の前に座つた。前は何軒か飲み屋がある。後の事なんか考え無いのがアル中の特徴だ。今買えば間に合うのに飲み屋の方がばかり見ていた。この汚い姿でたとえ友達がいても入つて行けないので、何を考えているのか自分でも分からぬ。しばらく座つてそしてセントーへ行こうと立つ。体が固い。じつと/or; いれば寒い。十月ももう終わりに近い。この時は曇つて居たと思う。

セントーに着いた。小銭を全部出した。大して無い筈だ。飲み物は何も無い。今日は小銭しか出さなかつた。後二千円有る。なかなか、四合瓶買うまで集まらない。俺は壁の方まで下がつて横に成つた。火からは遠いが足は温かい。そしてウツラウツラしてゐた。わいわい騒いでいるので目が覚めた。セントー前は一晩に何回も騒いでいるのは珍しく無い。俺の所に来るまで残つてゐるかなかか分からぬ。少し雨が降つて來た。それで中の方に入るのに採めていたんだ。瓶が回つて來た。残り少ない。ゴクゴク飲んだ。普通はゴクで終わりだがこの時は余分に飲んだ。目をつぶつて寝ようとした。何人が集まつて来て大きな声で話している。随分、人が増えたわりには景気が悪い。飲み物はほとんどない。寝られないでので、歩く事にした。大勢いるように見えたが、雨の当たらない方に集まつただけだ。俺が居たのは奥なので雨が降つてゐるのも気が付かなかつた。いろはの方に急ぎ野田屋の横で何人か集まつて飲んでいた。小銭が無いので横を通つて奥へ向かつた。いろはの商店街はその頃は屋根が付いてた。冷たい物で通りの真ん中は開いている方が多い。だから皆は雨の当たらない端の方にいる。俺も雨の当たらない端の方を歩いていた。中ごろまで行つたら五、六人の集まりだ。そばまで行くと手を上げる奴が居る。誰だと思つたらこの間の朝ウイスキーを飲ませてもらつた時の人だ。今日はたいした飲み物も無く雨宿りしてゐみたいだつた。

他の連中は何かを數々か中腰で居るが俺はベタツと座った。アオカンの俺とドヤに寝て居る連中の違ひだ。ウイスキーを飲めと言つて渡してくれた。三分の一ぐらゐ残つて居る。さすがに紙コップは無く、遠慮なしに飲ませて貰つた。さすがに後は誰も手は出さなかつた。アオカンの俺の後は、嫌に違ひない。奴らはこれから飲みに行くようだ。俺は得をしたと言う感じだ。浅草に行くらしい。顔見知りは一応俺に行くかと声を掛けてくれた。俺は行く気はない。この汚れた格好で飲みたいけど行きたく無いのが本音だ。皆いなく成り残つたのは、俺とサントリーウイスキーの角瓶の中身は少々だ。焼き鳥が三本残り満足して居た。全部飲んで瓶をかたづけたまでは覚えている。後は寝てしまつた。切れ目なしにアルコールを体に入れ続けて居るので効いて当然だ。いろは通りは人がけつこういた。雨のせいだ。俺の側で集まりが出来た。結構酔つ払いがいて騒がしい。薄目を開けて見ていた。まだ来ないかと言ひながら待つて居るみたいだ。吉原へ買いに行つたみたいだ。六人ぐらいの集まりだ。なかには知つて居る奴もいる。隣で酒盛りが始まつた。段々騒がしく成つて歌まで歌いだした。

一升瓶を回し飲みしている。もうほとんど無い。思つた通り揉め事が始まつた。殴り合いを始めた。馬鹿野郎と思ひながら見ていた。騒ぎを起したのは俺の顔見知りらしく止めに入つた。俺の顔を見て驚いていた。少し残つて居るのを、俺にくれた。一気に全部飲んだ。そして千円を出し、皆も出し始めた。結構集まつみたいだ。三人ほどで買いに行つた。一寸歩いて来ると言つて立つた。足元が落着かない、フラフラだ。ひとまわりと歩いた。

山谷の労働者は色々な事を言われているが、山谷の七不思議で婦女暴行、動物とか弱者の虐待はヤマの仲間たちが、やらない。有つたとしたら、外から来た通り掛かりの連中だと思う。一般の方方が弱い者虐めだと動物虐待の話をニュースなどでよく聞く。よく争い事が有るのはライバル同士の競争なんだ。女性もヤマの仲間と認めたら同じ扱いを受ける。今も同じだ。

雨を避けながら端の方を歩いた。天井を開めれば良いのに、雨が降ればわざわざ開ける店もある。意地が悪いとしか思いようが

無い。其の頃も考案ながら端の方を開けながら歩いていた。屋根も終わり近くにあの幽靈叔母さんが寒そうに座つて居た。近くに集まりがあるのに加わろうとしない。どうしたといつて近づいた。直ぐ分かつた。朝からほとんど飲んで居ないと寂しそうだ。金が十円玉一個無い。ヤマのアル中は平等だから女性だからってお金が無ければ飲めない。俺がお金を出した所に連れて行く事にした。俺にとつて恐怖の叔母さんだから気になつてしようがない。顔見知りのやつに訳を話して頼んでやつた。一升瓶が二本買つて来て有つた。飲み初めていた叔母さんも一緒に飲み始め何と無くほつとした。アル中の苦しみはアル中が一番良く分かる。その時は一緒に飲もうと言ひ單純な考案だった。雨がだいぶん強く成つて來た。俺も仲間に入つて飲み始めた。もう夜中の三時頃だつたと思う。俺は少し飲んで横に成つた。誰かジャンバーを掛けられた。朝目が覚めて驚いた。人が三倍ぐらいになつて居る。大宴会だ。俺も起きて皆の顔を見た。知つた顔がいっぱいある。飲み物はたくさんある。もうまわりは明るい。俺も焼酎をくれと言つて手を出した。四号瓶をよこした。ほとんど手付かずだ。俺は大部分飲んだ。時間も七時をまわつて居る。外は本降りで、仕事に行かない奴が沢山いるはずだ。そう思つてその場を離れた。頭も体もフラフラだ。雨を避けながらゆっくり歩いた。開いて客がいっぱいだ。過ぎるとまた

もなく屋根が無くなる。人が溢れていける。雨降り独特的の風景だ。あつちこつち酒盛りをして居たが、

この時間になるとほとんどがアル中だ。他の人は立ち飲みか食堂で飲んでいる。

ヤマは仕事をしてもお金の無い奴。あん



まり仕事をしなくともお金の有る奴。色々な人がいる。

端まで行つてしまっていた。随分降つてゐる。他に移動は難しい。後千円しか無い事に気が付いた。不安が込み上げて來た。仕事仲間もその姿を見て声を掛けなかつた。雨が強いのでいろは通りから移動出来ない。大宴会の場所に行つて見た。まだ大勢で派手に飲んでいる。もう少し飲んでやろうと中に入つた。時間はそんなに無い。店の人気が掃除に出て来るからだ。宴会も終わりにしなければならないので急いで飲んだ。場所を移動する話もしていた。人数も十二三人いるとと思う。飲み物もまだ沢山ある。俺も一緒に行こうとしたら顔見知りが江戸屋に行こうよと言つて近づいて来た。行く事にした。俺は金は無いぞと言つたら、大丈夫少し有ると言つてゐる。三人程で向かつた。混んでいるのは最初から知つていた。二人は焼酎ハイボール、俺は只の焼酎だ。飲みながら回りを見ながら飲んでいた。知つてゐる奴が結構いたが、声は掛けなかつた。奴らには二杯ぐらいい飲ませてもらつた。そして一人が帰つたのは覚えてゐる。後は全然記憶が無い。

自分が覺めた。江戸屋の向かい側で寝ていた。体も少し濡れてい  
る。もう寝過ぎだ。まだ頭はボーとして居る。最後の千円も無い。  
百円玉が五、六枚あるだけだ。不安が頭に出て來た。雨もまだ降つてゐる。暫くボートしながら座つてゐた。寒さも襲つて來た。立つて歩き始めた。体が固くなつてゐる。ゆっくりフランフラン歩  
いた。店が開いてるから天井は閉まつてゐる。真ん中あたりで集  
まつていたがあまり派手じやない。たいした飲み物も無い。通り



過ぎて今朝までいた所に行つて見た。もう誰もいない。心細い。少しでもお金の有る時と大違ひだ。まだアルコールが効いてゐるから良いが切ると大変だ。又戻つて歩いた。端まで行つて見ようと思つて歩いた。寒いんだ。セントラルに行つて見ようと思つて歩いた。途中何個所か集まつてたが気に止めず歩いた。端まで行つて見たら雨が結構強く降つてゐる。行く迄に濡れてしまう。しゃがんで見ていた。通りも人通りが多く成つて來た。もう買い物の時間が近づいてゐるんだ。野田屋は屋根の無い所に有るのであまり混んで居なかつた。久し振りに入る。焼酎を頼んだ。客は十人ぐらいだ。飲んで見たがうまいとも思はない。こういう状態に成つた時からアル中の、体の苦しみ、心の苦しみが始まる。

飲みたくないのに飲まずに居られない。どうなつてゐるのか自分でも分からぬ。仕事じゃ俺の方が数段上の生活ぢや奴の方が意氣揚々と生活してゐる。俺の方は一杯の焼酎を求めて、一日中歩く。酔うと何處でも寝てしまう。情け無い人間としか思ひようがない。

これとはルートが違うが美女木の飯場にいた時からセントラルの前でアオカソをするようになつた。その時付いたあだ名がセントラル前の羽だ。皆には俺がセントラルが好き何だと言つてゐたが、自分の本心はそうでは無かつた。俺は何の為にあんなに一生懸命仕事をするんだ。それに対する見返りは覚えが無い。お金を貰う時だけだ。仕事は嫌いぢや無い。何でこんなうまくない焼酎を飲む為にアオカソまでして納得が行かなかつた事を思い出す。

一杯飲んで又屋根の有る所でしゃがんでいた。まだ三時頃なのに薄暗い。嫌なのと不安な時間帯だ。アルコールはまだ酔つ払うぐらい効いて居るから良いような物で、しらふだとじつとしている。もういくらも無い。雨も止みそうに無い。仕事もして無いのに仲間に金貸せ何て言えない。何を考えてしゃがんでいたか、今でも分からぬ。きっと頭の中は焼酎が詰まつていたに違ひない。濡れるのを覚悟で歩いた。

いろは通りからいろはパチンコ屋の方へ向かつた。急いでいるつもりが早く歩けない。やつと着いた。かなり濡れた。パチンコ

屋の前は人が一杯だ。間に割つて入つた。汚い姿は何人もいない。四人か五人だ。其の内の一人が二合瓶を持って飲んでいた。集まつて飲んでる訳では無い。暫く座つてた。皆いなくなつて来た。

パチンコ屋の前は一メートルぐらい雨が当たらない。その端の方に座つていた。有り難うと一口飲ませて貰つた。嫌な雨だと言ひながら座つていた。いる奴全部に一口ずつ飲ませていた。直ぐ無くなつた。別に気にしてるわけでも無く座つていた。俺は雨に濡れて寒さが倍だ。とにかく寒かつた。もう夕方になる。パチンコ屋の中に入つて端の方で外を見ていた。それはまだ苦しい内に入つて居ない。それから苦しいのか悲しいのか悔しいのか全部だつたと思う。さつき皆に飲ませた奴が、今度は四合瓶を二本買つて外の奴らと飲み始めた。買った奴が中に来て俺と同じ汚れた奴達に声を掛けていた。俺の所にも兄い買つて来たから飲まんかと声を掛けてくれた。何と無くほつとした。表に出た。やつぱり寒い。寒さより飲む方をとる。雨の当たらないのは両端だけだ。それで二本買つて来たのか。良い奴だと思つた。片方の方へ行つて飲ませて貰つた。何と無く味がしない。こうなるとかなり体が弱つてアルコールが切れると幻覚、幻聴が現れる状態だ。その頃は不安だつた。食いだめ飲みだめは出来ない。あんまり飲むと何處でも寝てしまう。かと言つて飲まない訳には行かない。今考えれば忙しい時間を過ごしていったと思う。

遠慮して飲んだ。片方に三人と四人だ。俺は四人の方にいた。皆飮えていたのかもう余り無かつた。だけど俺は大分飲んだのか効いた。そこで少し寝た。寒いのに良く寝たもんだ。目が覚めた時、回りは人が入れ替わっていた。雨が止んでいた。まだ着てる物は湿つていた。寒いわけだ。パチンコ屋はまだやつてゐる。客は余り居ない。大分寝たみたいだ。立ち上がつた。体がカチカチだ。背伸びをしたらひつくり返つた。少し歩こうとマンモス交番の方へ向かつた。時計を見たら九時を回つていた。センターの方へ向かつた。たき火が焚かれていた。まだそれほど人はいない。八人

程度だ。俺は止まらずいろは通りに向かつた。何しに向かつたかはつきりしないが、一杯を求めてだと思う。

俺の姿は想像出来ないと思うが、ひどい姿だったと思う。今はホームレスなのか一般の人なのか見分けが着かないが、其の頃はホーリーは通りに着いて歩いた。直ぐ疲れる。すこし歩いて直ぐ座つた。酔つて居るだけで無く体力も無くなつて居る。食べ物は日吉以来ろくな物を食べていいない。又歩き出した。今日は集まりがほとんど無い。その頃は通りに今ほど人の数はいなかつた。昨日は雨の為人の数が多かつた。雨が上がつたのでいつもの通りの数だ。通り全部で十人ぐらいだと思う。端まで歩いて座つた。ヘタ

ーと言ひ切れない。アルコールが切れていいないから良いけれど切れたら大変だ。暫く座つて歩き始めた。この通りでは此所の所良い事ばかり続いたから期待していたのかも知れない。良い事ばかり続いたら今頃生きていなかつた。今日は今の時間宴会をして居る連中はいなかつた。通りの時計は十時半を回つてた。又戻つてあさひ会通りへ出た。その頃、屋根の有るのはいろは通りと此所だけだ。こつちでは宴会をして居た。何となくほつとした。

あんまり側に行かず離れて様子を見ていた。六人ぐらいの集まりだ。静かに飲んでる。良い感じだと思ひながら見ていた。暗くてはつきり見えないが知つてゐる奴がいた。しかし仲間に入るにはいくらか出さなくてはならん。四百円しか持つて無い俺は行き辛い。これが有る時と無い時の違いだ。金を数えて見た。やつぱり四百円一寸しか無い。三百円を残して百円一寸を別にして近付いた。よう兄いと声を掛けて來た。よく知らない顔だ。ヤマだから見た事は有る。まあ一口飲んだらと瓶を出した。俺は遠慮しないで金を出す前に口を付けた。そして金を置こうとしたら手を出して良いからと言つて止めた。大して無いからと言つて置いた。良いのにと言つてこの前センター前で有難うと言つてゐる。やつぽい出した。元気が無いから一升瓶を買つた事が有る事を。だけどその時の顔ははつきり覚えていない。何人か居るみたいだ。飲み物は沢山ある。とにかく飲ませてもらつた。

今過去をふりかえつて気が付くのは本格的アル中と、其れも大勢知り合つて行く事だ。何でかと考えると其れだけアルコール中毒の病気の進行が進んだと言う事だ。誰でも分かる事だが酒飲みの所には酒飲みが集まる。飲まない者の所には、飲まない者が、そう言うものだ。俺が飲まなく成つてヤマに帰つてから飲まない奴の方が多く集まつた。

話は戻るがすぐ酔いが回つて来たのを思い出す。どのぐらい飲んだかは分からぬ。其處から少し離れて寝た。目が覚めた。寒くてだと思う。乾いて居るようでは着てる物は湿っぽさを感じる。まだ飲んでた。少し人数が増えたみたいだ。寝てる奴も何人か居た。側に行つて見た。女性も飲んでいた。この人は次の週俺が飯場に行つて三日ぐらいで帰つてくるんだけど、其の間に死んでしまう。いろはパチンコ屋の前で夜中に目が見えないと言いながら意識が無くなり救急車を呼んだが間に合わなかつたそうだ。盛んに飲んでる頃は人が死んでも大した氣にもしなかつたが、アルコール中毒は進行性の病気で回復は出来る事が分かつてからは残念でしょが無いと思うようになつた。この人はまだ三十歳前後だつたと思う。美人では無いが気の良い人だったの覚えてる。

大分景気が良いみたいでまだ飲み物は切れて居ない。俺も飲んだ。百円と一寸で大分飲んでる。今考えると焦りからだと思う。飲み溜めなんか出来ないので、この時はまだ良い方だ。まだ三百円有るんだからね。これから先もつと酷い不安な毎日が続く時が来るんだ。何時かは分からないので目がショボショボで通りの時計は見えない。何時か聞いた三時を回つたと言う事だ。結構仕事仲間が居るからお金を借りれると思うだろうが、飯場で満期まで頑張る事が出来ないから貸せとは言えず回せと言う、つまりくれと言う事だ。返す自信が無いからね。お姉さんは酔つて横に成つて居るのか分からない」其の時はそれ飲めつて感じだつた。だけどお金があつても吉原まで買いに行ける奴は居ない。皆酔つ払つて居るからだ。俺も酔つてはいても途中寝てるから記憶が

生きている。

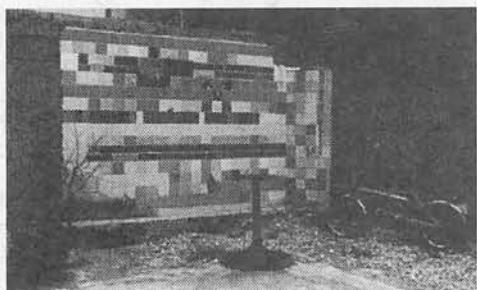
もつともマックの仕事の時、AAの十二のステップの一、二、三、を何回スピーカーしたか数え切れない。内容は過去どのようで、何が起つて、今どのようで有るかを、大まかに明らかにする。俺の場合アル中人生の表面を何回も話したので中身がむき出しに成つたんだ。時間はたいてい三十分だつたので中身まで話す事は出来なかつた。俺は回数と共に段々正直になつていつた。アルコール中毒は進行性の病気と言う事を理解して、回復する事を信じる力が強くなつて行つた。

話は戻るがさすがに飲み物はいくらも残つて居ない。時間ももう四時を回つたと思う、昨日は雨だから今日は早くから人が出て居る。俺も大分効いているが、人が仕事の支度をして出て来ると気に成つてしまふが無い。俺は表に行くと言つて立つた。かなり効いているがフラフラと歩いて通りに出た。まだ薄暗い。それでもけつこう人が出ていた。手配師も始めた。ゆっくり歩いてパレスの前に着いた。マンモス寄りの入り口から離れた所に座つていた。少しづつ明るく成つて來た。人の数も段々増えて來た。何と無くウキウキしたから不思議だね、仕事なんて出来る状態じゃ無いのに。ボーとしながら回りと通る人を見ていた、正面の路地からセンターのアオカソ連中が出て來た。センターでは朝に成る百円づつ配る奴が時々居るんだ、そして皆は宮城屋へ行つて百円分焼酎を飲む。あの頃確か一杯百十円だつたと思う。百円分だと少し上が空くんだ。俺は動かなかつた。眠い様な何かはつきりしなかつた。誰かを待つて居る様なきつとこの時仕事がしたい気持ちだつた。誰もがしたい気持つだつた。誰も人も溢れる程増えた。座つてたんじや回りが見えないので立つたらフラフラだ。暫くし



てから立つて歩いて向かい側へ移動した。又座った。今度はさつきより見渡せる。今度はさつきとは逆で人の数が少なく成つてくる。波が引いたり押し寄せたりだ。ヤマの流れの一つだと思う。また移動した。今度はいろは通りの入り口近くにサンコウと言ふパンコ屋が有つた。歩いている時は回りを見る余裕が無い。まだ大分効いてる。着いて座つた。もう六時半を回つたと思う。人が大通からセントー、玉姫労働出張所の方へと人の波は移つて行く。俺は其の頃現金仕事は余りしなかつた。次の年は体調を直すのに少ししたが、その頃は飯場がほとんどだった。

座つてたら仲間が現れた。アオカン仲間だ。この頃はアル中はほとんど顔は知つている。にこつと笑つて近くに座つた。普通な一杯買うのだけど何と無く一錢も無く成るのが不安だつた。そしたら奴が兄い十円ぐらい持つて無いかと言つて。自分は二百円持つてゐる。俺も二百円出して四合瓶を買つて来るように行つた。奴も喜んで分かつたと大きな声で返事をして買いに行つた。何かもう七時を回つていた。マンモスの前、カム屋の横からセントーに向かつた。カム屋はまだ二十二、三の頃からの常連でだけど其の頃は内も商売だけど羽やんだけには酒は売りたく無いと言つて。俺が酒を止めて一番喜んだ飲み屋だ。朝は食堂をやつてゐる。今は表はやめて横でおむすびを売つてゐる。その時は急いで通り過ぎた。セントーの前は人が大勢集まつてゐた。中に入つて募集札を見ていた。其の頃から大した募集は無かった。出ようとしたら大きな声で兄いが現れた。



と呼ばれた。さつき焼酎を買ひに行つた奴だ。服の下を見せた。四合瓶が見えた。やつぱりどこも聞いて無くて七時に世界が開くのを待つて買つて來た。半端な時間だと買ひ物に苦勞するなど言ひながら口を開けて飲み始めた。まず一口づつ飲んだ。俺は前のが、まだ効いてるから、それ程飲むのにこだわつていなかつた。俺は大して飲まずに回りを見ていた。百円しか無いのが気になつてしょうがない。少しづつ俺も飲んだ。大分酔つてゐたが記憶は意外とはつきりしている。不思議な物だと思つた。

山谷マックが出来て二年ぐらい後十数年山谷に帰つて仕事をして居る。そして通る度に其の頃あつた事思い出した。山谷の町で俺が倒れて居ない所の方が少ないぐらいだ。だから一つのルートをたどると次々と思い出すんだ。マックの女ビーカばかりでは無い。

暫くしてから一人が立ち止つて千円を出して飲もうかねと言う。何處かで見た顔だ。話をした事も思い出せないでいた。まあ一口飲めと言つて飲み口を拭いて瓶を渡した。有り難うと言つてゴクゴクと美味そうに飲んでる。俺も思わずごくつと生唾を飲んだらしない。

最初の瓶は空に成つた。又買ひに行くと最初の男が言つた。この千円使つて良いか聞いたら「気にしないで使つてくれ」。一升瓶より四合瓶の方が良いかと聞くので「どっちでも良い」と言つた。残つた二人で話をした。何處で逢つたか聞いたら所沢の飯場で一緒だつたと言つて思つて出た。あの飯場では俺は職人で行つてゐる。奴は手元で来つたのを思い出した。大きな飯場だつた。百人以上居る。思い出せない訳だ。職人は一ヶ月以上手元は短期の十日以上だつた。今どこへ行つてゐるか聞いたら今は現金仕事をし

ていると言つていた。今度は早く奴が帰つて来た、早いなと言つて誉めてやつた。奴等二人は五十を越えている、俺は其の頃三十五ぐらいだつたと思う、奴は四合瓶と二合瓶と摘みにビーナツを買つて來た。俺は焼酎よりビーナツを食べた。しかしビーナツを食べる為に三人集まつてゐる訳じや無い。飲んだ後は記憶が途切れ途切れだ。

しかしパチンコ屋の店員に掃除をするからと起こされ頭をブルブル振りながら立つた。フラフラだつた。昼間いつもいる所に行こうと歩いた。途中に座り込んだ。歩けないぐらい効いていた。まだ九時半ぐらいだ。パチンコ屋の開店は十時だから九時半から表の掃除を始める。酔う訳だ、日吉から帰つてから飲み始めてまだアルコールが切れていない。不安で切れ無いせいも有るけどね。俺は、その頃幻覚の話を聞いているが大抵部屋中虫だらけとか体中虫だらけとか俺の様に幽霊の話は聞かないんだ。だから俺の場合本物の幽霊かもなんて考えていた。

その處で暫く寝たらしい。目が覚めて暫く座つていて。頭はボリとしている。立つて歩き始めた。やつと着いた。チャヤンピヨンの車はまだ有つた。まだ昼頃だと思う、居眠りに近い感じで坐っていた。うつらうつらの感じだ。雨が降つたから暫くぶりつて感じがしていた。ポケットには百円しか無い。もうチャヤンピヨンには回せとは言いにくい。多少余裕が無いと言えない。少しして又寝た。大分酔つている。その割には記憶が割とはつきりしている。きつとお金がないのが不安だつたんだ。それで体はフラフラでも頭ははつきりしていると思う。

暫くしてチャヤンピヨンが車に帰つて來た。俺は薄目を開けて見ていた。俺は話しへかけて行かなかつた。話かけて行くと向うはお金を盗られると思うし、俺も何と無く気がひける。お互ひ



同じ考えだったのが後で、俺がアルコールを止めてから分かる。手配師が奴の所に三人連れて行つた。これで奴は飯場に帰る筈だ。何と無くほとした感じだつた。もう奴は帰るな、と思ふ俺は目をつぶつた。少し経つてからがさつと音がして目を開けた。そしたら奴が俺の側から離れて行つた。側に袋が置いて有つた。中を見たら焼酎の二合瓶とつまみと煙草を置いて行つてくれた。見てから直ぐ立つてお礼を言おうとしたが車が出てしまつた。手を振つたら奴も手を振つていた。有難かつた事をいつまでも忘れる物では無い。昔から煙草はここには書いて無いが切らした事が無い。焼酎を開けて飲み始めた。つまみは良く覚えていた。ラツキヨウだ。安いが好きなんだ。久しうりに一人で路上で飲む。一口飲んで少し休んだ。急ぐ事は無いんだ。朝のがまだ効いている。一日の内で一番暖かい時間帯だと思う。仰向けに成つて驚いたのは腹が背中に付きそうなくらいへこんでいる事だ。何にも食べて無いからだ。この頃ははつきりしないが火曜か水曜日だと思う。時間は二時頃だつたと思う、また少し眠つた。近くに誰か座つた様な感じがしたので目が覚めた。その頃は過敏病の感じもあつた様だ。起きないで横が気に成るので起きて見た。見た事は有る。俺の顔を見てにやつと笑つて。服装は奇麗だ。側に来たので飲むかと言つて瓶を出した要らないと言う。そして滝さんに頼まれて來たと言つて。それで思い出した。この間、滝と一緒に行つた奴だ。辞めたのか聞いたら「用事が有つて休んだ」。そして「木曜の夜八時頃迎えに来る」と伝えてくれる様頼まれた。そう言つては分かつたと言つて有り難うと言つて、仕事はきついかと聞いたら「そうでも無い」と言つて。いろはパチンコの前で待つ様言つてしまつた」と言つて。いや用事が有るから行きます、と言つて立つていろは通りの方に歩いて行つた。有り難うと気持ちは嬉しいのと不安がある。幻覚、幻聴の恐れがこの後、襲いかかって来るんだ。俺は奴が行つた後、閻魔様の居る壁へ行つて肩を付けて目を瞑つて見た。何も浮かんで来ない。ほつと胸を撫で下ろした。元の所に帰つた。「何してたんです」とさつきの奴が立つて。何でも無いどうしたと、聞いたら「良かつたらこれ飲んで下

さい」と袋を俺にくれた。有り難うと言つて受取つた。それじゃ現場で会いましょうと言つて帰つて行つた。袋を開けて見た。焼酎の二合瓶が二本入つていた。俺が飲むかと言つて出したのが二合瓶だつた。

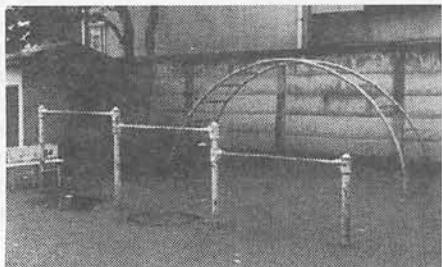
奴が滝の死を知らせに来ててくれたんだね。俺は其の時は最悪の状態だつたんだ。一生懸命、幻覚、幻聴から逃れようと必死の戦いをして居た時だ。確か次の年の二月だつたと思う。

又飲んだ。ごくごくでは無く一口飲んでは暫く止めてと言つた感じだ。又横に成つた。薄目を開けて通る奴を見ていた。人も余り通らない。手配師も大体仕事は終わつたみたいだ。何と無く落ち着いて居る。嵐の前の静かさだと今考えると分かる。暖かいせいもある。今日はだけど何と無く不安が腹の奥で動いて居る。一人で飲むのが嫌に成つた。又起き上がつた。そして通る奴達を見て居た。瓶を全部前に出して飲み始めた。飯場に行くと飲まない俺の拘りだ。最も飲むと連続飲酒になり仕事にならないからだ。それを俺は何時でも断酒を出来ると自分に言い聞かせ言ひ訳にもしてたし自慢にもした。こういう時は人が寄つて来ないものだ。少し寒さを感じ始めた。少しずつ飲んで居ても、一瓶無く成つた。次の瓶を開けた。空瓶を捨てて新しい瓶を二本とも開けて置いた。もう四時近いと思つた。手配師が誰も見当らないからだ。此れは駄目だと思い焼酎を持って場所を代えようと全部持つて立つた。兄さんと声がした。びくつとして振り向くと幽霊叔母さんだ。別に嫌いな訳じや無いけど嫌なんだ。俺を追いかけ回した奴の様な気がするんだ。又そこへ座つた。飲み物も食べ物も全部出した。この叔母さんの死んだ事は聞いて無い。この頃は五十を越えて居たと思う。俺はアルコールを後一年一寸で辞めるんだが噂は聞かないんだ。二人で飲み始めた。丁度二合瓶が二本有つたから一本ずつ分けてラッキヨウをつまみに飲み始めた。一人よりは良かつたと思う。其の時は叔母さんは呼ばずお姉と呼んでたと思う。お金が無いのに半分ぐらゐ飲んでから気が付いた。そうかーと言う気分だ。良いやと思ひながら飲んだ。大分飲んだ割には酔いが余り感じつかれた様な気がする。だが酔つては居たんだ。間も無

く其處で寝てしまう。いつ寝たかはつきりしない。夕方薄暗くなつてから目が覚めた。叔母さんも居ない。だが気が利いて居るのは二合瓶に二口、三口の焼酎を残して行つた事だ。始めは何かと思つてたが臭いを嗅いで見て分かつた。俺達は起き酒だ。普通の人は寝酒だ。起きて残つて居るのを全部飲んだ。暗く成つてから魔の方を見るのが嫌で場所を変えようと立ち上がりた。滝がいろいろセントーの前を通つて店の前に着いた。何人か座つてた。俺も開いてる所に腰を降ろした。皆顔見知りだ。パチンコ屋の中も少し見た。あいつはパチンコも好きだつたんだ。飲む打つ買う三悪を平等にこなしていた奴だ。出身は九州だと聞いている。九州の何処かは分からぬ。氣の良い奴だつた。

俺も其の時は仕事を待つて居たと思う。俺は昔から仕事が好きだつたんだ。酒を止めて年と共に考えて、死ぬ迄仕事をして行くには色々な資格が必要と考えた。だから。トラックに関連する物はまず大型特種の免許、建設車両の資格、移動式クレーンの免許、ホークリフトの資格などを持つて居る。これらは最後の仕事先の工藤組に預けてある。俺の名義で機械をかりていたんだね。これらの物はもう役にはたた無い。難病に掛かつた俺は一番嫌いな生活保護をうけている。この話は命が残つていれば書く事にします。

暫くしてから歩いて一回りしようと立ち上がりた。少しフラフランするが大丈夫だ。明治通りに出て泪橋の交差点を世界のほうに向かつて歩いた。大きく言えば三ノ輪の方だ。ずうつと歩いた。小さな立ち飲み屋を見てそして枝道に入つた。今度はパチンコじや無くいろは通りの方



へ向かった。通りに着いたらクタクタだ。思わず座りこんだ。前みたいにたつたつとは歩け無い。通りの外よりに着いた。七時を回っていた。時計を見て又パチンコ屋の方に歩いた。やっぱりセントーの前を通つてもうたき火を始めた。俺は寄らないでパチンコ屋に向かった。滝を待つてた。考えて見れば気の早い話だ。聞いたのは今日の午後だ。其の時の焦りが分かる。じいっと待つてたと思う。次の日の夕方に来るんだけど前の日から待つてたんだ。着てる物も手も顔も半端じゃ無い。汚れてる。その頃はまだ良い方だったかも知れ無い。着てた物は紺の七分ズボンと紺の丸首シャツと紺のジヤンパーそして地下足袋だ。下着も靴下もはいて居ない。寒いのは当たり前だ。紺にこだわった訳では無い。が汚れが目立たないだけだ。暫く座つて居たが落ち着かず、立つてマンモスに水飲みに行つた。又店の前に座つた。まるでそこに縛られたみたいだ。仕事がしたかったと思うね。滝にはあの時の事を今でも悪かったと思つて、もう八時はとっくに回つた。まだ其處にこだわつて居る。今度は向かい側に行つて座つて見ていた。別に今日来るなんて言つて無いのに。理由は百円しか無い事、仕事がしたい事、そして、飯場にくとアルコールを飲まない事。そして何よりも不安なのは、幻聴、幻覚の世界に飲み込まれる事。少し前までは禁断症状を三日酔いだの四日酔い何て言つてたんだ。今度は出るか出ないかの違いだ。期待と不安が半々だつた。もう九時を回つた。やつと諦めがついた。セントーから、いろは通りに向かつた。前みたいに山谷を一回りなんてわけには行かない。今まではもつと体力が有つたのかも知れない。今考えると俺は本当にタフだつたんだ。何年も禁断症状と戦つて負けた時はヤマに帰つて又飲み続ける其の繰り返し。最後の方は特に酷かったんだ。いろは通りをゆっくり歩いた。そんなに何時も良い事が有る訳が無い。まだ早いせいか集まりは無い。途中疲れて休んだ。横に成つた。もう五時間ぐらい飲んで無い。集まりが無くては百円じゃ今の時間じゃ飲めないんだ。暫く経つてから又歩き始めた。今度は端を行つてみた。やっぱり人も余りいない。今度は玉姫の方へ向かつた。着いたが人も何時もよりいない。又

端の方で座つていた。ポケットの百円玉を手で握り絞めていた、今迄が余り恵まれ過ぎだつたと思う。今が普通なんだ。もう十一時過ぎている。又歩き出した今度はあさひ会通りの方へ向かつた。端から歩き出した。誰も居ない訳では無い。集まりが無いんだ。半分ぐらい歩いて又座つた。今度はもう歩きたく無い。ずっと座つて横に成つた。寒さを感じ始め丸くなつてしまつた。から誰か来るのは感じてた。話声がしてた。俺の前で立ち止まつた。兄さんと呼ばれて顔を見たら又あの恐い顔だ。幽霊叔母さんだ。今日の午後一緒に飲んだ相棒だ。どうしたと聞いている。何でも無いと言うと来た奴と一緒に横に座つた。俺も起き上がりつつた。三口ぐらい飲んだ。なんと無く気持ちが落ちていた。これだけ体力が落ちてもアルコールを体に入れる落ち着く。美味しいなんて思つて無いのにね。アル中と依存症が強い事が分かる。俺は最初だけで後はあんまり飲まなかつた。煙草を随分吸つたのを思い出す。近くに仕事に付く事に焦りが有つたと思う。それでも少しづつ貰つて飲んだのが効いたみたいだ。寒さが和らいだ。うつらうつらと眠気がした。飲み物も無いから横に成つた。叔母さんの相棒がダンボールを持って来て敷いてくれたのを思い出す。暖かかつたんだ。眠れないので歩く事にした。

お姉有り難うと言つて歩き始めた。夜中の二時頃だと思う。まず大門の見返り柳に出て、いろは通りの入り口に向かつた。馬道通りからいろは通りに入つた。ゆっくり歩いた。今日は、誰もこの通りばかりで無く宴会の少ない夜だ。俺にとつては不安が募るばかりだ。今飲まないと飯場に行くと、俺は一滴の酒も飲まないと決めているんだ。だから飲むなら今だと言う考え方だ。だから百円しか無い。自分がじれつたかっただと思う。其の時考え無い事が一番恐かったんだと思う。あの幻覚、幻聴だ。考えるだけで恐ろしかつたんだ。飯場に行くまで考えなかつた。いつも同じ事を繰り返していく、満足な感じをした事なんか有るはずが無い。

暫く座っていた。なんと無くその日は時間が経つのが早い気分だつたと思う。四時に近かつたと思う。立つてセントーに行こう

と思つて歩いた。途中何人かいたが皆バラバラだ。集まる理由が無いんだ。飲み物があれば話は別だが、何にも集まる理由が無い。愚痴を言いに集まる必要は無い。セントーに着いた。人は結構いた。早朝のせいもあるが、三十人ぐらいはいた。間に入る隙間がない。俺は離れてパチンコ屋に向かい側に座つてた。人が集まり出した。後三十分もすると人の波ができる筈だ。じいっと座つてた。俺も近いうちに仕事を始めるそう言う気持ちだ。こいつらには負け無いぞ、そんな気持ちで見ていた。人がふれて来た。場所を少し移動した。焼酎を飲みたいと言う気持ちは其の時は消えていたと思う。仕事の事で頭がいっぱいだつたと思う。俺も立ち上がつた。その時仕事に行く訳では無いのに、一生懸命気合を入れていたと思う。飲んでばかりでこの何ヶ月か仕事らしいことはやつていらない。今度こそと言う気分だ。

奴の行つてゐる所の仕事は注入防水という俺にとつては初めての仕事だつた。場所は千葉県の幕張だつた。京葉道路の補修工事だつた。あそらへんは埋め立て地だから地盤が下がるんだ。下がらない様に下の方を防水剤で固めるらしい。仕事は大した不安は無かつた。人の話では急げ者の仕事と言われている。不安は体力が持つか、眠れるか。今まで三日ぐらいは眠れないと思つて。本当は少しばかり眠つてゐる様な気がする。何と言つても禁断症状の時は今考えると正氣じゃないからね。其の後のことは考えるのも嫌だつた。満潮が過ぎて人の数が減つて來た。やつと気を取り戻した。一杯飲まないと氣付いた。アル中はいっぱい飲まないといけないと氣が付いて当たり前。しかも朝だからね。普通の人から見ればだらしの奴と思つても当たり前だ。自分でもそう思つてた。百円有れば一杯飲める。宮城屋へ向かつた。汚いのはしようが無い。相変わらず混んでる。黙つて百円出して焼酎を注文した。少し少ないと一杯くれた。思わず大事に受取つたのを思い出す。離れて座つて飲んでた。同じ条件の連中が回りに集まつて來た。一緒に座つて飲み始めた。これでもう一銭も無く成つた。

だけど飲む為の不安は無くとも止める為の不安で頭の中がいっぱいいだつたと思う。

アル中の所にアル中の所が集まる。今考えると分かるが飲んでる時から、無名のアルコール中毒者の集まり、つまりAAは飲んでいる時から始まつていた様な気がする。飲んでる時には飲む為の協力、止める時には共通の問題の解決なんだね。

そんなに時間をかけずに飲み終わつた。立つていろはパチンコ屋の方へ向かつた。座るまえにマンモスのカレンダーを見に行つた。そして木曜日だと分かつた。その時から時間との戦いが始まつた。まずパチンコ屋の前に座つた。約束まで後十何時間あるのにね。膝の上に顔を上げて居たのを思い出す。まだ早いのは知つても、気持ちを押さえられない。早くアルコールから離れたいのと大丈夫だろくなと言う気持ちだつたと思う。暫くしてから歩き始めた。その時は目的を持たずに何処を歩いたか定かで無い。今になつて分かるのは、飯場に行く前はパニックになつてゐる事だ。不安がパニックの原因だつたと思う。

セントーに来た時知つてゐる奴が二人飲んでいた。大分酔つてゐる通り過ぎ様としたら元い飲んで行けよ遠慮しないで飲めと大きな声で言つて。座つて見たらもうあんまり入つて無い。あんまり無いから又今度など言つて立つた。そしたら手に此れ持つて行けと言つて二百円くれた。有難うと言つて其の場を離れた。又パチンコ屋の前に座つた。この時は酔いが覚めたと言うより酔わないと言つた方が良いかもね。暫くいたが落ち着かない。世界が開いていた。さつき貰つた二百円がある。世界に入つて百円分焼酎を貰つて表に出てパチンコ屋の方を見ていた。普通に考えれば変な話だね。俺にして見れば滝では無く自分にじれつたかっただね。少しずつ飲みながら泪橋を見たりパチンコ屋を見たり忙しい態度だつたと思う。全部飲んでから歩いた。

いつもの場所へ行つて見た。まだ早いから何処の車も来てない。店は全部開いてた。山形屋も丸千葉も開いてた。いつもの所に横になつてた。チヤンピヨンが来たら昨日の礼を言おうと思つて待つてた。中々来ない。いらいらしてきた。時間はまだ早いのに十

## 路上文芸総合雑誌『露』(Rojuku)宿

時を過ぎないと来ないので、飯場の連中を現場に送つてから来るんだ。禁断症状の一つかも知れない。後百円有るのを思い出した。野田屋に向かつた。又一杯飲んだ。酔つた覚えが無いんだ。日吉の事を思い出すと不安でしようが無かつたのを思い出す。いろは通りの入り口近くでしゃがんで大通を見てサンコウのパチンコ屋の横で座つてた。又パチンコ屋のシャッターが開いた。九時半頃になるはずだ。いろはパチンコに縛り付けられた。俺は見えない所に行けないんだ。センターに向かつた。

所に乗りにくい汚いからね。いくら洗つても奇麗にならない。今度はいろはパチンコ屋の前に行つた。まだ開いてない。掃除は終わつてた。開店を待つてゐる人で沢山の人の山が出来てゐた。俺は客では無いので横の方に座つてた。座つてまもなく店が開いた。俺一人になつた。暫く回りを見ながらボーとしてた。少し眠つたみた。

この後この場所からは滝が来るまで動かなかつた。寝るかトイレに行くか。アルコールを飲むための行動はとらなかつた。俺にして見ればすぐそこ迄迫つてゐるんだ。仕事や色々な事が頭に浮かんできつてたと思う。この日はこの場所から借りていた。三時頃にトイレで顔と手を洗つた。パチンコ屋には石鹼が有るから便利なんだ。センターで洗つたよりは少しは落ちたが全体の汚さは変り無い。汚かつた事を思い出す。其の日は一〇時頃から滝が来るまでここを動かずアルコールも入つていらない。しかしアルコールの事は其の時だけは頭から離れていた様な気がする。それだけ自分のやつてゐる事に納得がいかないし元に戻りたかつたんだ。時間がたつにつれ



仕事から帰る奴も増えて來た。パチンコの客も増えて來た。時間も五時を回つた頃だつたと思う。目もギラギラしてたと思う。神経をとがらせながら回りを見回してた。まだ七時前だつた。パチンコ屋の前にタクシーが、中から滝が降りて來た。飛び上がり興奮した。これが幻覚、幻聴との戦いの始まりだと言うのを今だから見えるんだ。ニコニコしながら俺の側に來た。「羽さん待たせたな」と言いながら立つた。喫茶店に二人待ち合わせしてゐるから一緒に行くかいそれとも一杯飲んでるかいと言つてゐる。厳しい声で言つたと思う。俺は飯場に行く時は酒は飲まないぞ滝と、言つたら「そうだつたな悪い悪い」と謝りながら七時半の待ち合わせだから一緒に行こうと言つてゐる。こんなに汚れているからここに居ると言つて断つた。「其処は羽さんも何回か行つた事がある所だから大丈夫だ」と言つた。名前は忘れたが手配師が使つてゐる喫茶店だ。其処へ向かつた。滝に付いて行くのがきつかつた。同じアル中でも仕事をしているのとしないの其の差が出て居た。喫茶店に入つた。二人が滝に手を上げて立ち上がつた。俺は見た事は有るが話をした事は無い。酒を飲んでる姿も見た事が無い。俺の見た目では、あまり頼りになる奴ではない。そう見えた。紹介されたが名前は忘れた。滝はビールを頼んだが奴等はあんまり飲まない様だ。俺も一杯だけで後はジュースを飲んでた。奴らは荷物を持つてた。俺は持つて無い。仕事の内容より人間的に落ちるのが分る。荷物は無いし着てる物は汚れて居るし、奴等も始めは行くのが嫌だつた居る。ヤマともしばらくお別れだと思つて寂しい気持ちに成つて来て居た。飯場は千葉の幕張だと言つて居る。タクシーだと言つたのでホツとした。この汚い姿で電車に乗るのは嫌だ。滝が会計して居た。皆乗つた。途中で滝が車を酒屋の前に止めて買い物をして居た。皆にはワンカップを渡してた。俺に「羽ちゃんどうする飲むかい」と聞いたので俺は飲まんよと言つた。

(未完)

# 私の雑記から 其の二

## いさむ



逆境や 人道無限 がまん坂  
麗春に 希望は遙るか 雲の彼方に  
部屋内に ふるさと忍ぶ 写真をば  
数枚 飾り 想ひに更ける  
新宿を夜半にバスにのり 朝つきて  
故郷は お茶で名高い 京都宇治  
世界遺産の 平等院  
宇治川の清き流れに 立ち止る  
松の葉かげに 十三の塔  
夕間に舟の上にて 魚とる  
鵜匠の姿 り、しく浮かぶ  
学校の授業をさぼり 宇治川で  
泳ぎし頃の がき大将  
ふるさとも 今は変りし御角も  
お茶の香りは 以前そのまま  
川底に眠れし父の なきがらに  
橋の上から 不幸を 詫びる

在りし日は 日の丸櫻で 手を振りて  
富士の裾野に 勝利求めて  
優しき亡父の 面影うかぶ  
黄昏れに 宇治川ほとり 佇めば  
若き頃 なんの宝も 無い我れも  
老いての宝 人生体験  
耐え難し 花の生命は 短かくて  
我をなごませ 散りゆく 未練  
ヘルパーの話す会話も 教訓と  
老いて恥ずかし 未練なわれ  
かたことと キヤベツを刻む  
音にもだえ  
瞼の中に なき妻 恋し  
生き甲斐の 四ツ谷の事務所  
夢みて  
我あわれさに 病を恨む  
会場で 友と語りし 交流に  
笑顔千両 尊とき宝  
介護うけ 時は過ぎ去り 早や六月  
回復しない 腰の痛さよ

露宿二十三号に引続き其の後本年  
入ってからの私の雑記から掲載  
させていただきました。

今日も又 いつも変わぬ 日常に  
ベットの上 明日に希望を  
過ぎし日に 彼岸課題の俳句会  
あの日の仲間の  
詠む素晴らしさ  
炊出しに山谷まで行つて 飯を焚き  
新宿の 仲間と 舌づ、む 我れ  
友の顔 思ひ出すほど 身をせめる  
花見にゆけぬ 新宿御苑  
昨日は友に混りて 語り合ひ  
舞う花片に 生きるよろこび  
鮎ちゃんの 無邪気な笑顔 風にのり  
我が身と遊ぶ 幼きこゝろ  
春近し 野鳥さえずる 日暮れ坂  
志摩の浜風 夕陽を浴びて  
投稿の 知らぬ仲間の 句を読みて  
力づけらる 病魔の 我れは

(一)  
碎ける波を、夕暮れの、  
陽射しが紅く、染めていた、  
ああ、初恋の日は遠く、  
愛しい君の面影よ。

## 露宿から

### 平和元の祈り、

田代 猛

世界唯一の原子爆弾の被爆國日本にて、昭和二〇年八月九日長崎市に於て、学生動員中被爆し多くの身内、知人、友人の尊い命を失ひ戦争の悲惨さを身を以て体験しての……心からの祈り、叫び、憎しみと絶望から救え。そして人々に平和をと……

人間七〇年以上生きてくるとの世の中、相当にひどい、つまり「非道な」ことはなかつたようだ。今回の米英軍による対イラク武力行使がいよいよ実行されるまで、私の中で最も「非道な」不条理は米軍が日本の敗戦を感じながらも投下した二発の原子弹（広島、長崎）による非戦闘員の市民老若男女の大量虐殺であつた（即死一五万余、未だ五十数年過ぎし日の今日に至る日まで年間数千人近くの人々が死亡してゐる現実）。

しかし、今回の対イラク武力行使は大義も筋もない。國家の「エゴ」むき出しの、やりたい放題の不条理さである。この「非道な」人の道から外れた軍事攻撃で何万、何十万単位の市民将兵が傷つき命を失うのは確実である。國連が戦争してもいいと決めたケースは（二つある）、①自國が侵略を受けた場合②國連安保理の決議による特定の國に制裁を加える場合である。今回の対イラク武力行使はそのいづれでもない。つまり國連憲章という「ルール」

に明確に違反している。それはアナン事務総長も認めるところである。小泉首相の米國支持は違法行為を一國の代表として世界に明らかにしたに等しい。日本人として何とも情けなくやり切れなさい思想である。

話をもう少し分かりやすく比喩で説明しよう。話は一見高尚に見えるが、実力（武力）で片を付けるという発想は暴力団（マフィア・スジモノ）の出入りの考え方と同じである。あの組は組長がひどいやつでどうも「ヤバイ」、武器をたくさん隠し持つていてようだ放つておくと自分達の組がやられるかもしない。そこで四十八時間以内に組長が廃業したら許してやるが、そうでなかつたら実力でたたきつぶしてやる。ほかの組にも呼びかけたが「いやそれは警察（國連憲章）の仕事だよ。おれたちはやらん」と断られてしまった。そこで一、二組とだけで攻め込んだ。組事務所の周囲には民間人も大勢住んでるので市民も巻き添えになる（暴力団に申し訳ない）。實際の出入りではそんなに大勢を殺害することはないからだ。

そしてその無法暴力団を裏で支持し「スポンサー」となつてゐるのがほかなりぬ私たちの「小泉日本」である。悲しき日本の支持表明である。日本人の八割強の反対を「蹴」したその言動。「國際世論、國內世論なんて明日になれば吹き飛ぶことだつてある。そんなのあてにするものじやない」……と小泉さん。貴方は國內世論の多くの支持で首相になつたのも「ボケ」で忘れられたのか：；と、そしてブッシュ大統領と武力行使のその日の電話会談で「笑ひながら」米國の圧勝を祈ると語られたそうです。名も無き人々が命を失ひつつあるその日に……（語るに尽きるの一言です）。私は單純に戦争か平和かを語りたくはありません。もつと、もつと、深く深く、過去と現実と未来の歴史とを語りたいと心から

願つてゐます。そしてこの文が露宿に記事になる五月の或る日の青空にくつきりと鯉のぼりの「ハタ」が浮かび舞ひ、人々に明日の未来に向けての平和な安らかな日々を……こそして全世界の人々に五月の青空に平和を祈る日が訪れる日を願ひ祈りつつ……。

金日成（北朝鮮） フセイン（イラク） ブッシュ（アメリカ）  
何れも“権力者” “獨裁者” “一極支配者” 同一の固りだと思  
ひつつ、私の願ひ、思ひ、祈りを記しました。

二〇〇三年四月二三日 暖き春の訪れの日を迎ながら 記す

### 平和えの祈りの句

- 一、靖国で不戦を誓うと云ひながら、  
ブッシュの宣戦を支持する首相
- 一、金あればなんでも買える世の中に生きて、  
金では買えぬ今日の平和
- 一、幸せの未来団宣戦の風に散りぬけど今日を生きゆく  
平和えの叫び
- 一、戦争は必要ですと云ひし人、見たかこの幼な真摯な眸しんし　ひとみ
- 一、白梅のつぶやきほどの香の中に想ひおこし  
原爆に散りし友の顔

（三月二十四日参議院イラク戦争支持の  
集中予算委員会審議を見ながら記す。）

## 意見広告

### ホームレスの代表を国会へ

カンパ送り先、一円以上いくらでも  
郵便振替口座 00160-6-190947 「ろじゅく編集室」  
\*「五湖提案に賛同」と記載の事

国家財政再建を!!条件付寄付国債の発行をすること。  
1000円、1万円単位、とする。

<条件とは>

- A、2050年に財政再建された場合に元金を返済する。
- B、2100年に財政再建された場合に元金を返済する。  
ただし、原則として寄付とする。

全ての政党、全ての立候補者にお願いします。一人500円カンパ選挙を  
実行して下さい。

選挙管理委員会が認めているポスター、ハガキ、選挙広報にカンパ  
500円の送金先を明記して下さい。

「選挙管理委員会は」は積極的に候補者、政党に  
このことを働きかけて下さい。

2003.3.9 五湖四郎

詩集「エロスの廃園」より

十、ねずみ捕り作戦

一九九五、八、二〇 富士吉田署にて



望月大成

あんたは保護なんて必要ない  
自分で勝手に出てきた それだけのこと  
それでかい面こいで  
あ、だ こうだ 能書きたれでよ  
サツを何だと思ってるんだ  
やれ 飯が食いて 寝るところが欲しいの  
餓鬼の世話じゃあるめえし そこまで面  
道見られなかつてんだ  
手前がまいた種 自分のことだろ  
自分でやんな 自分で  
お前 用はすんだんだから 面道は見な  
保護はいりませんと署名を書いて  
とつとと出てつてくれ  
いぜ  
お前の狙いは分つてるよ  
保護施設に入つて たゞ飯が食べて  
たんまり寝て 甘い汁吸つて  
冗談じやねえぜ  
不足なら さっさとオウムへ帰れ  
大月までバトに送つて貰つて ありがて  
えと思え  
本当はその必要もねえんだが  
まあ 仕方がないさ  
せつかく命がけで出てきたんだからな  
後は野となれ 山となれ  
好きなところへ行つて くたばんな  
サツ 一切関係ない

言つとくがな お前のお目当て  
救助施設 そんあもの始めからない  
あるわけねえだろや  
お前たち 引っぱり出して  
村から追つ払う それ以外何もないさ  
看板に偽り? だまされた?  
お前みてえなワル連中に  
飯食わせて 寝場所こさえて  
そんな御接待なことやる人 いるわけ  
だまされたと思いたいなら  
あ、けつこう  
罠にか、つたお前が悪いのよ  
ねえ  
それによ 何でえ  
テレ朝だ 新聞だ かつこうつけて  
こ、は警察 サツでパフォーマンスや  
んなつづうの  
お前なんざ サツは一切用なし  
関わらんでくれよな  
お前の行くところがどうだつて  
そんなこと オレたちが知るかつてんだ  
何 ビジネスホテル?  
勝手にしろ バトに送つて貰え  
これつきりだからな  
何やつてんだ ぐづぐづするんじやねえ  
さっさと 出でけ!

# 十一、貴様をぶつた斬る

路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

そこまで面道見たつとるんやで  
もちつと 根性入れてやれんもんかのう  
あつちゅう人は

先生やつてそういう夢あんじやろ  
ちゃんと やろやないか

おい、わしを甘く見んなよ  
わしゃな十五年もムシヨで暮した人

ホント 駄目なお人やなあ

ムシヨは飽きた もう嫌や

野川の橋の下 あんなとこで暮つしょ人の  
見て

二度とは行きとうない  
けどな それも時と場合によりけりや  
だてに菱紋はつけとらん これは飾り

わしが目かけたつたんは  
埋めらせるこたあない

男の顔汚され 落し前つけんならん  
そういう時もある

そう思て 声かけたつたんやで  
せつかく 元、才能持つとつて

その時は行く サツでもムシヨでもな  
おれは先生をぶつた斬る

極道のわしがえ、例や

それでムシヨへ入つても それでえ、  
んや

先生は違う 上がれるお人なんや  
世間ちゅうのは 一たん落ちたら浮かぶと

ころはない

梅辰やて 先生のことはほめどる  
チャンスはあるんや

もちつと しつかりせなあかん

男の顔が立つんならな

その時は落し前 つけたるで  
さつきも言うた通り 先生ぶつた斬らん  
ならんようなる

先生 あんた何しにこ、へきたんや  
わし 黙つて見よるけど

間違うて命を落す？ そりやあるやもな  
それはその時の運や

作曲もせん 詞も作らん 書きもんも  
何もしよらん

そいだけ 肝に銘じといでや  
一九九六、十、三 山谷

毎日、たゞ飯食うて  
酒ばっかし飲んで フーラフテ

面道は見たるんや  
わしんとこにおりや 暴力団や来えへん  
もし押しかけ来よつたら わしが守る  
こわあらへん

何考えとんのか さっぱり分らん  
へん

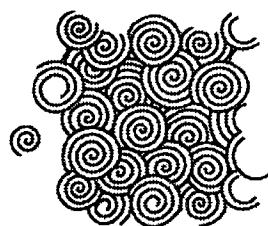
あいつはもう出入り禁止や  
先生はな ほかの穀潰しに耳かすことあら  
わしの言うことだけ聞いて

言う通り動くんや  
え、な わしから逃げたらあかんや

こうなつたら 一蓮托生 地獄へ落ちるん  
もいっしょ

浮世でえ、思いすんのもいっしょ  
わしやつてまだ若い

九州の親にも 錦絵飾つて見せてやりたい



# 無題

## 五林修

何なほのかは良く分らないのだが、”旅”をしようという事になつた。夢は荒野を駆けめぐるのだろうか。ともかく合意した事を守るだけでも、不実でないことの証しあるはすである。僕は、ゆく。

何なほのかが解らなくなつた時に、人は旅に出る。何かが解るはずと思ひ込み、予定行動が日常を支えていたのに、突如として崩れてしまふ生活に耐えられなくなつた時だ。実は、何一つ解らずじまいでいる自分が、そこに見える旅である。僕は、ゆく。

昨日、山日労書記長、原田君の公判日だつたのに、私は仕事に

出かけた。

日雇いのカンバ無しでは、立ちゆかなくなつて来て、その行く先に機動隊の盾があつた。

地獄の沙汰である。前回の公判で、二度東京地裁に出かけた事があつた。僕の印象では、我田引水である。彼も私も、時代の流れに流され、茫然、そして、自失である。流れされ方はちがうが。

地裁で山口県に居られる御母さんの姿を見たのだが、愛別離者の互いの悲しみ苦を、我が事のように見せつけられた思いだつた。越年越冬の取り組み前に、彼の方から話しかけられた。”一人、獄中で本でも読みたい”と。僕は、“体をかわす事だつて出来る”と答えた。

自分自身に正直になろうと努力しても成果の実感できぬ時代状況があるから、これを理由に努力を放棄したならば、私の場合、居たまれない心境になる。夢は、荒野を駆け抜ける。

五年前に結核に蝕ばまれた僕の身は、幾度かの入退院を経ながら、死を受け入れる心を育んで來ていた。僕は、自殺の誘惑にもとりつかれだし、”性急な答えを出さない事”で、この誘惑をねじ伏せた。原田君は、病床の僕を見舞い、クラフゼヴィッツの戦争論と機関誌を置き、帰つて行つた。僕は、八木重吉の詩集を欲しかつたのだが。

現実に埋没しないと必死の抵抗を”旅”に試み、そして砂の穴に落ちた、あの男、安部公房の”砂の女”も病床で読んだ。成る程、そうなのか、というのだ。僕は、そこで、”墮落論”を三十年ぶりに読んでみた。

“成る程、そうなのだ”

時間と場所と空間そして人物が設定されれば、小説の一つは生れる。そこに、装いを加えれば退屈をしのぐだけの小説は生れはする。けれど、我々は、忘れて去る名人である事を、OLD ACCOUNTしていい。だから、尽きない現実に夢をかけて生活しているのではないか。

雪が、降つた。

また、雪が降つた。

そして、また、雪が、降つた。

一年じゅう、雪は、積もるんだへえが。

積、層、雪。

雪は白い

白い雪だ

イーハトーフの雪だ。



卷之三

マーチで始まり、フェブラリイで終る。

そのカレンダーの中央に、一人の男の顔が、

僕を、人間として、写してくれた方への感謝をもつて観る。

観るが、久遠くおんのかなたから、聞二元しらべる。

或る朝、電話のヴエルが、鳴つた。  
受話器を手にした僕の耳に、『雪を掛け』という言葉。

旅、毎日が旅

中崎卷子

六年四組、教室に、顔を出し、  
担任の、長内アサ先生に、険しい

學齋金長曜山二

中崎の巻子か 立てて 立てたまま 泣く

んが、んがどあ、何、してんだあ。

人を人を責め、而も

で、そ  
うなるんだえあ

まだ、やつてしまつた。余計な事を

また、やつてしまつた。めぐらが、ロン・パリが

卷之三

父、政蔵は、五林之家の為に、遠くは、カムチャツカ、近くは、  
小樽、函館に漁を張つた男。  
母、姫は、十六歳で、政蔵に嫁だ女。  
ここに、一枚の写真がある。  
大川目、山川目、谷川目、大山各川目で写しとられた、五林の、  
魂の一枚の写真である。

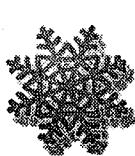
僕の反抗は、ロンドン・パリという、差別からそして先天性に依

るものから、はじまつた。

学校にゆかずとも、父が、教えてくれる

僕は、学校に、ゆくのが嫌になつた。

受話器を手にした僕の具



## 一、百鬼昼行の巻



## 一 出てくるの出てくるわの章

朝だ 夜明けだ 初日の出 天氣だ元  
気だ 快晴だ 雨降り以来のまつ赤  
なまつ赤なお日様だ ヒーさま  
様だ マッカなマッカな日が昇る マッカナ  
マッカな海と空 甲板もわたしの開  
く口もマッカッカ  
なぜだろうなぜかしら 昨夜まで四十  
四日と四十四夜を降りつづいた雨が  
二時ごろピタシと止んで 世界は広  
くなりにけり  
今朝六時イップン 灰色空が割れて青  
い空がムニューと生まれて広がって  
ミルミル全部が青空だ これはアク  
マの契約か 昨夜の朝太郎予言が成  
就したものなのか  
見渡す限りの水平線は水が減っている  
のか増えているのか全く見分けがつ  
かない  
より増えているものは減つて見え 本  
当のリコラ者はバ力者に見え バ力  
者もバ力に見え (注一老子)  
またとない大きな器はでき上がりつてい  
るのかできそかなつたものかまるで  
分からぬが 決して晩成なんかし  
ないで挽壊する (注一老子)  
だがああ 気持がいいぞ うれしいぞ  
太陽赤くして語り部マスマス狂わん  
と欲す  
今春みすみす過ぎけるが 狂痴人には  
いざれの日にも帰年はなし (注) 行  
く所はクレジニア

三界に家なしの 三十二相八十二種の  
好好人 君ヲハ意味もなく死ぬまで  
狂うが摠め アメンホツテブニ世の  
石像よろしく 永遠にこの朝を睨んで  
いるのがよい  
しかもだ 歴代の王の顔を削つて 手  
前のバカ面に彫りナオシたという  
だから疲れハテルではないか 朝睨  
みの暴君め  
正に狂痴道は死ぬことと見つけたり  
バカは死ナキナキ十分からないから  
だが我々は死よりまぬがれて アク  
マ様に選ばれて 心おきなく太陽拝  
めるぞ  
日は昇り日は狂う ああ 久しづりの  
お日様だ 狂人のための大自然の太陽  
太陽は光だ力だ情熱だ 血だ肉だ生命  
だ 热だエネルギーだ アクマの御  
心だ 愚人痴人の喜びだ 悪の華  
狂人の心 赤心のココロだ 船中の  
ダニやカイセン南京虫もひと目太陽  
見て死ね  
諸狂痴人こぞりて迎えませり 久しく  
待ちにしあ日様は来ませり 天照大  
魔神はキませり アクマはキませり  
常に神を許しながら (注)  
四方の海みな狂人の世と思う日に (注)  
両手に三本指立てて すばらしいの  
Wサインを出すトッちやんボイで  
あるわたくし語り部  
ああ すばらしい 生命の本源 悪の  
極たる太陽だ 狂おしいほどに核爆  
發せる太陽ぞ  
生きていて良かつた 狂つていて本当

ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

に良かつた 狂つていたからこそ  
きょうの朝日が見えるのだ  
世界中のキ印達 幾千もいじめしご  
かれた御身の魂魄は非暴力闘争より  
も崇高だつた 見事に絶滅せずに復  
権したからだ

痴狂を守りてアクマを得 愚公山を移  
すが如く苦難の歴史 聞くも涙語  
るに落ちる涙の物語 地獄は我と共に  
あり 天国は目の下海水の中にあり  
踏まれ頭を割られ 魔女にされ 極悪  
人にされ 犠牲になり 煮られいぶ  
され 水責めで殺された 普通人の  
身代り地蔵 ひき立て役の地蔵尊  
ヒラヒラ笑う笑い地蔵  
きようあるのもみな 痴狂人の御先祖  
様の恩恵とアクマ様の慈悲によるも  
のだった

天知る地知るアクマ知る狂痴人知る  
差別と弾圧の長き年月

太陽ダイダイ色にして狂人うれしから  
ずや 海のオレンジ色 橙色に染り  
て狂え船酔いびとよ

失礼失礼 人のために計りてワメクを  
宗とする語り部 少しく興奮したれば  
一でも興奮や感傷にひたつている  
時ではない

常に狂人のため身命を惜しまず 愚人  
平和のために大きな仕事をしている  
④連 日の昇らぬうちからいろいろ  
働いてござる

きようの良き日を祝おうと 狂人痴人  
用に頑丈な棺桶兼用の机とイス む

に良かつた 狂つていたからこそ  
きょうの朝日が見えるのだ  
世界中のキ印達 幾千もいじめしご  
かれた御身の魂魄は非暴力闘争より  
も崇高だつた 見事に絶滅せずに復  
権したからだ

痴狂を守りてアクマを得 愚公山を移  
すが如く苦難の歴史 聞くも涙語  
るに落ちる涙の物語 地獄は我と共に  
あり 天国は目の下海水の中にあり  
踏まれ頭を割られ 魔女にされ 極悪  
人にされ 犠牲になり 煮られいぶ  
され 水責めで殺された 普通人の  
身代り地蔵 ひき立て役の地蔵尊  
ヒラヒラ笑う笑い地蔵  
きようあるのもみな 痴狂人の御先祖  
様の恩恵とアクマ様の慈悲によるも  
のだった

天知る地知るアクマ知る狂痴人知る  
差別と弾圧の長き年月

太陽ダイダイ色にして狂人うれしから  
ずや 海のオレンジ色 橙色に染り  
て狂え船酔いびとよ

失礼失礼 人のために計りてワメクを  
宗とする語り部 少しく興奮したれば  
一でも興奮や感傷にひたつている  
時ではない

常に狂人のため身命を惜しまず 愚人  
平和のために大きな仕事をしている  
④連 日の昇らぬうちからいろいろ  
働いてござる

きようの良き日を祝おうと 狂人痴人  
用に頑丈な棺桶兼用の机とイス む

しろを並べ 酒や菓子などを出して  
いる この日のための万国狂人旗もスルスル  
上げて 次には下ろしている これ  
も朝太郎 狂人のために先んじて憂  
い 愚人の心を喜ばそうと考えた心  
づくし そしてまた揚げる  
そんなマルキカンブも心うかれて 天  
下晴れてのクレージー晴れを謳歌する  
「おヒー様はエーライな おお空の真  
ン中で大海原をテーラス（注）」

バカな歌など唱つて仕事を進め 日が  
高くのぼつて黄色くなりだした頃  
甲板の準備も終つて 船底の整理も  
終つて 期待の地獄の釜のフタが開らかれるこ  
ととなる 船底から ジャーンジ  
ヤーンのドラの音と共に ギィリギ  
ィリと音がして 開けゴマ 開らけ  
ポンキッキ 大勢のわき立つ声がし  
て ジャーン  
ああと叫ぶのとおおと呻くのと幾許ぞ  
閉ざされていたアクマの扉 地獄の  
マンホールのフタが花開く ジャーン  
ひーらいたヒーライタ奈落の底のカマン  
の蓋 ひらいたと思ったら出てくる  
わ出てくるわ出てくるわ この世の  
妖怪達一

で て こ い で て こ い で て こ い ア  
クマが開いた出入口 ほーら出て来  
た デテキタ出で来たよ（注） 二千  
人余りの狂人達が一  
海中に棲む魚が クモやコソ虫達を追

いかけて 姿や形を変えながら陸に  
上った古代の生物 セイムリヤ イ  
グチオスティガなどの食いシンボ達の  
やうに 出てくるわ デテくるわ ちっちやなち  
つちやな出入口 外は広々空は広々  
海は広々カバンパンもヒロビロ（注）  
もうもろの諸々の顔が見え 叫びが聞  
こえ 顔を歪めたり 口をすればめた  
り大きく開けたりの怪物共が まぶ  
しい光に当たられて 目をしばたき  
ながら現われい出た  
ほおをふくらませたり ハラをへコま  
せたり 尻をふつたりチビつたりオ  
モラシしたりしながらもワインワ  
イノとわななきいななきススリ泣き  
ながら這い上がつてくる

出てくるなり走り出したり ケツころ  
んだり 泣き出したり キのうの敵  
に抱きついでキッスまでやらかす感  
激 カンカン照りのカバンパンに目も  
顔もくらんで丸目藏人の剣士ぶり  
ひつたくつた人のパンツを掴んでく  
るやつもある

そりやそうだ 目の前でおっさんのブ  
リーフから屁のオミマイいただいて  
顔まで踏まれりやパンツのひとつ  
ふたつヌガセタクナル

中には右のハナ穴に屁のオミマイされ  
れば 左のハナ穴さし出す博愛者も  
イルダローけど

射病も余罪も再発併発し 日射病と熱  
いながら蜘蛛の子のようにな

# ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO ASATARO

ああ 閉ざされていたアクマの扉が開  
らかれて 出てくるわデテクルワで  
てくるわ  
正にきようの良き日は大狂人の飛び出  
たまいしヨキ日なり(注) ひかり  
遍く狂人が代を祝え 笑え 狂つて  
ケケケと叫べ狂人よ  
「ありや何んだ! 毛虫かゴキブリか  
イモかクマかナメクジかはた地下  
の化物か」  
「いいえそうではありません あれ  
は四十四の夜と昼を穴倉に押し込  
められた痴狂人さまのお出ましです」  
大きな船のまっ黒い 小さな小さな出  
入口 押し合いへシ合ひどなり合い  
鼻が潰れて鼻曲り 涙を流してショ  
ッパイよ  
世界中の氣違ひ共がバカのようになつ  
て 光を求めて這い上がる ああも  
つと光をと望み 今度は目がクルメ  
イテ光が多すぎるとゼイタクこきな  
がら  
空は広々快晴だ 遮る雲の影もない  
甲板も船室も広々 狹いのは甲板へ  
の這い出し口  
| むかし アクマが細い穴からクモの  
糸をたらして 神のため地獄に墮さ  
れた人々を救つたことがありました  
でもみんなは我れ先にと出ようとする  
から なかなか出られない 順序よ  
くひとりひとり出てくれれば早いのに

と思われながら  
その時だつてアクマさまは 這い上が  
つくる悪党全員を救おうと クモの  
糸をお切りになどなりません 抱強く  
みんなが上がつてくるのを見つ  
てました 善人も教わるのに悪人おやと思いつ  
つ(注)  
日の当る甲板も昼になりました  
奈落の底から飛び出すビックリ箱の度  
迫力 怪獣か恐竜か ゾンビか妖怪度  
か 足を引っ張り頭を押さえ 叩き合  
いやら頭や肩を踏み台にして  
イノギヤイノとひしめきながら這  
上がつては 四方八方に散り去る  
その子達 それでも秩序正しく④のカンブ  
ダセパードみたいにみんなをユード  
ーする 従わない者にはカミ付き吠  
える そんなのよりベーヴみたいな  
優しい雌豚ならなおいいが  
雲も行かない スズランの花も咲かな  
い鉄甲板に レイホーレイホー ホ  
ラ貝吹けば 這い上がるがつてくるよじ登つてくる  
イホーレイホー 憎つたらしいバカ  
面共よ(注)  
「さあさみなさん カンパン見物  
と つてもすきな狂人食(注)  
人旗の下でカンパン受け取れ  
バコもあるぞ 酒もある  
本日は愉快な嬉しい独立日 普通  
人みんなスヤスヤ水の下に眠る時

狂人は船底から飛び出して そし  
て踊るよチヤツチヤツチヤー 狂  
人のチャチャチャチャ 狂人のチャ  
チャ チャ(注)  
ひとり二合の酒呑んで 世界狂人類  
開闢祭に呆氣を振起すべし 歌つ  
て踊つて這いすり回れ ハレルヤ天氣は晴れるや 我々の心  
も晴レルヤ バカだからこそ生き  
られたこの幸をアクマに向つて吠  
え称えよう ハレルヤ アクーメン バカはバカ  
一メン 狂人はキヨージン麺 バ  
エビカニバーベキュー ネズミの唐  
揚げ モヤシのスープ バカメ酢  
もあるぞ」

ああ 世界は広くなつた 世界のバラ  
バラの間接みなくつついて 新世界  
は始まつた 世界は再び謎と神秘に色取られ 冒險  
狂気のベールは開らかれた 地球は丸いのか平面なのか 三角なの  
か 天動説か地動説か知らないが それでも狂人は動いている

(注)は、引用、書き替えしたもので、必  
要があれば(著作権などの問題)、これを  
正式に届ける用意があります。



## 分化帝国主義

〈グロバリゼイション〉

02  
11  
10

秋戸 空

ビルジング・・・再び、ビルジング  
ビルジング、ビルジング

ビルジング・・・再び、ビルジング  
ビルジング、ビルジング

寄せ集めのようにな  
集散している、ビルジングの群れ

夢に見るのは〈ゼニ・金・ダイヤモンド〉

そこにはあつたのは

〈ダイヤモンド・金〉のカス

鉢溝 (こうしょう) (かなぐそ)

それは不協和音に参加するようにな  
巨大会鼓い手たちの〈組合〉  
不協和音が響いてくる  
〈支配〉のあらゆる〈神話〉が  
民衆の裡 (なか) え流れ込む  
人間種 (支配者) どもが民衆の街に押し寄せ・  
不協和音を鳴らしながら  
〈民〉は舞い始める  
すべてを〈盗み去る〉  
民衆の思いも考えさせない考え方も・  
アルコール依存症、資本主義の傷あと  
貧困と死を輸入しつづけ  
民衆に押ししつける第三世界  
貧困と死||資本主義の生産物  
小數者の幸福のため、とは  
多數者の不幸の上に  
築き上げる・・・〈益人たち〉・  
また一方の【よく見えない手で】  
もう一方の手で見せびらかす(世間に對して)  
〈マスマディア〉の力||〈支配権力〉の力  
世界をハチヤメチヤにした  
不眞実を〈眞実〉とし眞実を  
〈非眞実〉としてしまう・  
グロバリゼイション||〈本当の姿〉

狂氣な世界に喜ぶ世界支配・  
世界にある〈文化帝国主義〉は・  
文化を創造するのだ・  
そこで聞い(サバティスターの周い)が  
狂氣な世界に喜ぶ世界支配・  
化石化した博物館〈文化〉

林立するビルジングの  
豆粒ほどの巨大なビルジング  
ホールでは愛欲の祝祭が(ランボー詩行)  
響きわたる、やかましく・  
真中に立つ

民衆は〈金・ダイヤモンド・幻想〉を  
あがめ立てて〈民衆のため?〉  
とした支配の  
ビルジングがそり立つ・・・〈幻〉  
あかがねの虚像 (ランボー詩行)  
その情勢を〈支配者〉たちは  
分析を紡ぎ始める  
〈支配者〉たちは何もない・  
奴隸たちにむりやり命令し  
発展||暗黒の世界えの後退  
紡ぎきせる・  
〈破壊えの前進〉

暗黒→真→白に光がやくその光も強烈すぎて  
何も見えなくなってしまう真→白の世界  
白闇の世界||何百年年にもおよび  
これまた何千年にもおよんで  
民はその白闇 (ホワイト) の裡で  
生き続けて来たので目(心)が見えなくなつてしまつたのでした。

# さくら満開 疲労満開



## 只野醉払



桜 さくら ラリルレロマン  
咲いた さいた 桜とロマン

桜 さくら ラリルレロダン  
咲いた さいた 桜とロダン

桜 さくら 桜が咲いた  
咲いた さいた ロマンとロダン

花冷え。桜の花が一度に、一気に咲き乱れるから、桜の花が吹く時、たくさんのエネルギーを消費してしまう。とてもなくたくさんエネルギーを必要とするから、大気の温度が下つてしまつて、冷え込んでしまうんだ???

2月17日(月)細工町の職場で昼食をしていて、何故か食欲がない。いつもは、5分もあれば平らげるはずのお弁当が喉を通らない。それでも、食べないことには、生きてはいられないからと、ようやく、30分程かけてなんとか食べた。しかし、食後感が良くなない。胸やけがする、胃のあたりが、チク、チク、モヤモヤ、鈍痛感がある。なんなんだろうと思つたが、翌日には治るだろう

と軽く考えていた。そんな症状が一週間も続いた。そして、体重を計つてみて驚いた。ここ3年間維持していた55kgが、なんと49kgしかない。なんと、一週間で6kgも体重が減つてしまつたのだ。

異常だ。やはり異常だ。ここ3年間なかつた症状だ。特に思い当る節もない。お酒は飲んでないし、暴飲、暴食もない。お昼は相変わらず、お弁当を持参しているし、朝夕もキッチリと決めた時間に喫食している。何故だ、なんなんだと思った。冷静に行動を振り返つて考えなければならないと思った。

まず、考えられるのは、疲労だ。1月6日まで年末年始の休みで、1月7日から働き出した。そして、一日も休むことなく今日になる。平日は8時にアパートを出て、17時に帰る。土曜日は8時にアパートを出て、19時に帰る。日曜日は9時に出て20時には帰る。そんな生活だ。ただし、1月10日から今日まで、月、木に限り夜勤をやらさせて頂いている。たしかに寝不足が続いている。夜勤の翌日は細工町の職場での仕事だから、かなり体力が必要だ。眠くならないためにも極力動くよう心掛けている。それでも体が動くことをいいことに惰性的になつっていたのかも知れない。胃の調子の悪さから考えられるのは、胃のために良くならない物の喫食を考える必要がある。高血圧で苦しんでいた飲酒時代からの気付きから、塩分をとにかく控えている。辛子類や刺激の強い物はとにかく避けている。

いや、あつた。コーヒーだ。この百人町に住んでからというものは、職安通りにある赤札堂で買つてある「めいらく、苦味ばし」のアイス。コーヒー 加糖」を一日2Lも飲んでいる。2年間も飲み続けていれば、その位飲んでいたとしても、いつのまにか、それが当たり前となつていていたのかも知れない。そして、この2年間特に体に異常はなかつた。今回の一件までは全くない。むしろ、夜勤等で寝不足の体をゆり動かして、行動の源といえる存在にな

つていたのだろう。

AAにたどり着いて、半年間はコーヒーを飲まなかつた。それまでは、飲み物はお酒だけだと思っていた。仕事が休みだつたら、朝起きたら、顔を洗う、歯を磨く、朝食を喫る、の前に、まず、缶ビールを一本だつた。それから煙草を一服して、結局は食事をしないで出掛けてしまつて、あとはギャンブル三昧だつた。当然お昼は立ち飲み屋で、焼鳥かなにかをつまんで一杯、いや、二杯。夕方になつたら、ネオンが狂氣の世界へと導いてくれた。あとは火を見るより明らかだつた。カラオケ狂のロダンは唄いながらブランデーをあおつて、いつも定番のブラックアウトだつた。

それが、ある日、ある時、AAミーティング会場で無意識の中で、なにげなく飲んだコーヒーが旨かつた。あれ!!! コーヒーって、こんなに旨い飲みものなのー!と思つてからは、飲み物はコーヒーだけになつていった。何の事はない、アル中が、コーヒー中になつっていたのだと気付いた。しかし、コーヒーを飲むのを止め得みなければなんともいえないと。

まず、止めなければならない事は夜勤、そして、コーヒー、一週間休みなく働き続けている事だらう。この三点を改善して見ようと思つた。そして実行に移すのに二週間を要した。夜勤をしている会社に行つて交渉して、3月10日から夜勤を休ませていただいた。コーヒーを止める事ができたのは、この夜勤を止めた時からだつた。それまでは止めよう、止めようと思つていてもなかなか止められない。赤札堂で買い物をして、レヂを通ると、必ずコーヒーを買つていた。いつも二本買つていた。依存体質の人間はいつでも、どこでも症状が出るのだということを知らされた。

何とか食べ易い物を喫食しながら体重は49kgを維持していた。そんな大変な時に、都立職業訓練技術専門校の入試があつた。2月20日、赤羽校にて、数学と国語、そして面接。それは「不動産実務」の入学試験。過去に二度この都立専門校の試験を受けさ

せていただいている。第一回目は、平成13年10月から入校になる板橋校で、科目は「介護サービス」、第二回目のトライは平成14年4月から入校になる武蔵野校で、板橋と同じく「介護サービス」、その二回は見事に失敗した。ロダンの考えとしては、介護サービスに觸れる仕事は、最も新しい分野で、介護保険制度の制定に伴つて生じた職業だ。動機の第一として挙げられるのは、まもなく、自身も高齢になることから、この生きていきうえで必要なことだし、自分のためになるとと思つたことからだ。現実的にはどちらかといえば女性の職業という感は否めなく、現実にも、二回応募した試験の時、受験生の8割強が女性だつた。そして、現在脚光を浴びてることもあり、競争率も6倍だつた。

今回の受験動機には必然性がある。昨年7月から世田谷区にある不動産販売会社に、土、日、祝現地販売員として、パートの仕事をさせていただき始めた。ただひたすら、客が来るのを待つといふ仕事なのだが、この3月でもう9ヶ月になる。それが結構嫌にならないのだ。もしかして、この仕事が合つていると思つてもいいのだろう。不動産の事は色々と法に觸れる事項が多い。お客様に質問されても、家を建てる人たちとの関わりにおいても知識がないと話にならない。知らない事を知ろうとする意欲は人一倍のロダンだ。この際、介護サービスは次回にして、今回は不動産実務の勉強をして、あわよくば、10月の第三日曜日に実施されている宅地建物取引主任の試験を受けてしまおうとの魂胆が起きた。受からなくとも元々だ。専門校に通う費用として、関係書物代が7000円、赤羽校に通学するのに、新大久保から埼京線十条駅まで160円、月に13回通うとして、 $320 \times 13 = 4160$ 円。これが6ヶ月だから、24960円、合計すると約3万2千円になる。AAにたどりついで、お酒を止めることができ、そしてわかつたのは、人生「学ぶ」だ。この年になつて急に向上心が出てきた。囲碁の世界にたずさわつて40年、昨日より今日、今

日よりも明日、少しでも強くなりたいと願つて日々過ごして来た事が、AAで生かされている。靈的成長、日々、たゆまない努力をする事をロダンは囲碁を通して行動していたのだと最近わかった。今日一日に止まっている事ができないロダンなのだ。

そして、2月20日、無事に数学と国語の試験も終り、面接も落ち着いて動機と希望を明確に話すことができた。筆記試験は80%ぐらいのできだと思っている。

2月28日、金曜日、細工町の職場から帰ると、赤羽校からの書類が届いていた。早速開封してみると、技術専門校合格通知書が封入されていた。三度目の正直がやっと合格を果たしたのだ。最悪の体調ではあったが、明日への希望に光が差し込んできたと思った。夜勤を止め、コーヒーを止め、二週間に過ぎたころから少しづつ食欲も戻ってきた。一週間に最低一日の休みを取ることを考え、4月からの仕事は、現在夜勤をさせていただいている会社で昼間仕事をすることにした。土、日、祝は今まで通り不動産販売会社の仕事をする。たしかに収入は少なくなる。それでも生活していくには心配はない。3月一杯は休みを取ることはできないが、あと少しの頑張りでいい。4月からのロダンの生活の方針がこれで決った。ただ、月、金に関しては仕事の都合で専門校への通学時間の問題が少し気がかりだ。もしかして、18時30分までの時間をクリアできなければ仕事を変える必要があるだろう。

3月23日、日曜日、昨日と違つて暖かい。アパートを8時50分に出て新大久保駅で囲碁新聞を買った。春蘭杯決勝三番勝負の「羽根無念」の見出しが踊っていた。李昌鎬に二連敗してしまった。羽根直樹天元、お父さんは羽根泰正九段だ。ロダンは羽根天元の打ち碁を並べたことはないが好きなタイプの囲碁を打つ。囲碁新聞をめくつて、17面の左下に催し案内があつて、朝日アマ十傑戦東京予選の案内が掲載されていた。

△とき 4月13日(日) 10時

△ところ 市ヶ谷・日本棋院

△参加費 1500円

△申し込み 当日受付

\*例年、東京都は本予選と三多摩予選に分かれていますが、今年は一つになります

△本戦 4月20日(1~3回戦)

27日(都十傑決定)

△問い合わせ 日本棋院事業部

TEL 03-3228-8729

昨年はこの予選をストレートで勝つて、128名の本戦権に入ることができた。自力で生活を始めたのが昨年11月だから、まして仕事を休むと一日8千円の減収になる。予選を勝ち抜くと翌週日曜日が働けない。したがつて、今年の囲碁活動はあきらめていた。

3月10日から夜勤をしていないから、もうかなりの減収になつている。

だが、この一ヶ月の気付きから、精神的コントロールのためにも、この囲碁大会に出るのがいいと思った。たしかに1万6千円となると痛い。しかし、ロダンにはAAと囲碁は必要だと実感している。

今日の現地は「ヒルズ用賀」世田谷区用賀2-26、今日現地でこの作品をかかせていただいている。春の陽射しが暖かい。ぼんやりとお客様の来るのを待つていて。裏庭の桜がほほえんでいる。体調もかなり良くなつてきた。細工町の職場の人たちがロダンの不調に何かと気を使つてくれる。ロダンのまわりの人たちが、みんな応援してくれている。

体調が悪くなつて一ヶ月を過ぎた。昨日体重計を見ると52kgだ

## 路上文芸総合雑誌『露〈Rojuku〉宿』

つた。おなかのあたりのモヤモヤ、チクチク感はもうない。一週間前から胃薬の副用も止めた。そのころから食欲も8割方戻った。この経験は、これから生きていく上で貴重な宝になるだろう。順調な時ほど、どこかに魔物が潜んでいるものだ。ということを思い知らされたのだ。人はとにかく習慣性の強い生き物だから、何も問題がないから「いいのだ」では行けないことを、順調な時ほどAAのステップ10、日々の棚下しの大切さを。人の体は万能ではない。ほんの少しづつのマイナスがチリも積もれば山となるで一気に吹き出してしまうのだ。今日のロダンの不調は真にその一例であつた。調子の良さを奢っていたのだ。これは高慢と言えるんだよネ。Yさん。

これを書きあげてロマンにメールをした。

「昨日、ロマンと久しぶりに夕食を共にできハッピーだった。有難う。4月からロダンは毎週水曜日休むことにした。お金は確かに必要だけど、命あってのものだね。少し働き過ぎだつたよ。4月2日水曜日だけど荻窪にある湯ートピアに行こうと思つてます。サウナに入つて、美味しいものを食べて、カラオケをやつて、昼寝して、そんな一日を過ごそうと思つています。実現すれば最高に素敵な今日一日になると思う。4月13日は囲碁大会にも出ます。今日は久しぶりにメールをお届けできたからロダンは偉せです。ロマンの\*オッパイを久しぶりに見て鼻血ブーのロダンより」

ロマンからの返信メールが届いた。

「ロダン。人生はお金でないよ。心に太陽を。唇に唄を。早く良くなつてネ。囲碁大会頑張つてネ。ロダンをいつも応援しているロマンがいるんだから。二日を楽しみにします。ロダンのロマンより」

\*洋服の上からです。念のため。

3月23日ヒルズ用賀にて

'03.2.23  
初めて炊き出しに参加して  
集めました。  
大根山に人参山に  
仲間の皆様と一緒に語らいながら、おもいおかしく  
作業できました。  
楽しい一時をおいかごつ  
ございました。



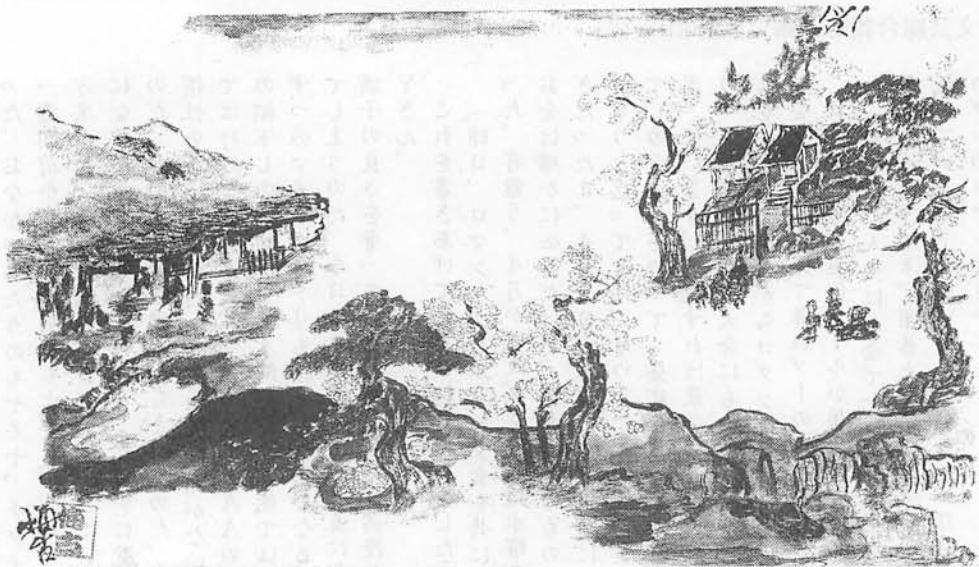
日曜日毎週あるたまだし

今日は中学生たちが20人くらい  
手伝いにきてた、そして山谷にきて手伝うの  
だう、俺にはわかれい  
まま

でも一緒になって手伝う  
いた。



'03.2.23  
肉体より神経的の方が雨で  
つかれてしまう山谷寄せ湯  
のホームレスとして俺の  
住まい 山谷から出て行き  
た。俺の気持  
最初のことは楽しかったけど  
今は苦しみさえ感じるように  
なってしまった。路上生活



# あかい花

はり姉いが丸

小学校1年生で「大きくなったら」という作文を書かせられたとき、私が「ピアニストになりたい」と書いたのは大うそである。姉が習っているからという理由で始めたバイエルの練習は退屈なものだったし、「わからない」と書ける選択肢がない中、「歌手」とか「スチュワーデス」とか書く周りの雰囲気に合わせただけの話だ。無論、そうした行為は心地いいものではなかったが、見えない未来の話などどうでもよかったです、その場をしのぐことの方が、そのときの私にとっては重要だったのだ。

私はその後も将来というものに関心がなかった。解放されたいと思うほど口うるさい大人が周りに存在しなかったこともあるが、気が小さく、与えられた以上のことをやろうとする習慣も、何者かになるためのプロセスを、自分から調べようとする行動力もなかった。それに加えて、「ウソをつくな」「謝れ」と叱りつけておきながら、ウソをつき、謝らない大人たちの狡猾さや生臭さは、失望の対象にはなっても、興味を抱かせることはなかったのだと思う。

しかしながら、それなりのプロセスを経て大人になってしまった今、いくつかのことをつまびらかにできる。大人のウソは、「偽り」とは言わせない場合が多い。自分をうそつきにしないために、焦点をぼかしたり、ずらしたりする術を知っているせいだ。子どもたちは、そうした大人のズレさが厭わしく、大人のしつばをつかめない技術の乏しさが口惜しかったに違いない。

自分を守るために、ヒトは口で毒をまく。けれども守っているその本質には無防備だ。それらがすばしこく、どうにでも変化するということすら忘れてしまうので、保身に勝った人間の掌には、たいてい何も残っていない。けれども、たとえば信念や信頼といった、はかなく見えないものを失うシグナルを見つけるのは難しいことではない。言った言わないの事実のみにむきなるのは、既に真実の行方を追わなくなってしまった表れだし、他者との比較を持ち出し始めるのは、己と向き合うことから逃げている証拠だ。そこでヨロイを脱げばいいものを、魂を売り、仲間を売り、それでも守ろうとするのだから。いったい、何を？

ところで件の作文。子どもに将来の夢をうたわせるのは、大人の自己満足以外のなにものでもないので、そのときは「ウソだ」となる友達も、「本当か」と詰め寄る大人もいなかった。だがしかし、私はこのとき、20年後の家族に、格好の攻撃のネタを提供していたのだった。

「ピアニストになって演奏旅行でオランダやフランスを旅したい」というくだりを、執拗な姉と父は、近年の世代交代も手伝って、年に一回以上は蒸し返して笑い転げている。せめて「お姫さま」とか「およめさん」とか書くセンスを、当時から持ち合わせてなかったことを誇りに思うしかない。

思ってないことは言葉にするものではない。

よ、やべ 新潟にも 春がやこきた。

植物が 枯れ果てて 冬の間 「死のサセ壇」と呼んでいた プランターから 植えても いよいよ花が咲いている。春は...いいなあ。

あきれるのを越して 感動すら覚える 我が「眠りへの執念」

この季節、何としても 眠り続けるための 晴の闘いを

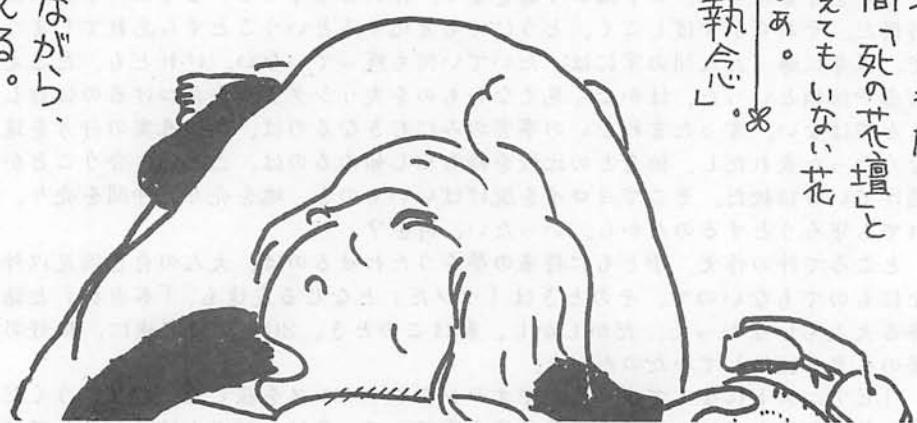
ひとり静かに 繰り広げて いる。 ... VS 日覚まし時計、

「リソ! リソ! とたたましくベルを鳴らす、奴」

眠た状態の頭ながらに 何とか 対処しようとする、うしく布団の下に うめ込んでみたり、電池を抜き取って片手に 握りしめながら 眠っていたりする。ある時とこから、「ガムテープを取り出してきて(なほけたままで!)」音が出ないようにな時計に細エラなどして いた。スイッチを切ればいいものをーと 考えるのだが、聞いた方にモホリジーがあるとみた。

今朝も 健闘したなあ、とナニヤかな勝利に酔いしれながら、待ち合わせた相手の顔を ハッと 思い出し 我に かかる。

遅刻の理由は「春だから...」「じゃあこんなあ...」と死に血漿車ここで行く





# おきなわ旅日記

～海～ 恩田美代子

帰る前に、やっぱり沖縄に来たのだから米軍基地は見ておかねばと、当時基地返還の問題でニュースに取り上げられていた「象のオリ」と呼ばれる米軍の通信基地を見に行く。米軍基地がやたら街の中心部にある沖縄には、電車がないのでバスに乗って向かう。運転手に基地について質問すると、他の乗客がいるのを忘れたかのように熱弁を振るう。

「あなた達が賛成とか反対と言っても、それは傍観者の発言に過ぎないよ。住んでる者の気持ちは、あなた達にはわからない。とにかく現実を見て、それを内地のあなたの回りの人に話して下さい。」

通信基地に到着すると、その小さな土地を大勢の報道陣・機動隊員・警官が囲みなんだか滑稽な図になっている。本当の本当は、土地って誰のものでもないのにな。バスの運転手に勧められた、村を一望出来る丘に登ると、スケールの大きな景色が広がり遠くに海が見え胸がすっとする。近くの博物館で、雑誌に載っていた第二次大戦中集団自決の場の一つとなったチビチリガマに行く道を尋ねると、おじさんが丁寧に教えてくれる。さとうきび畑に蝶がひらひら舞う平和な光景を目にしながら到着。一度は破壊され復元したという碑には明確に、当時の軍国主義によって罪なき人々が犠牲になったと書かれ、洞窟の中にはたくさんの折り鶴が置いてある。洞窟の中は暗く、今も亡くなった人の骨があるかと思うと恐くなり外に飛び出す。

とにかく海を見ようと歩き始めると、新聞配達をしている中年女性に逢ったので米軍基地やチビチリカマの話をすると、堰をさったように話し始め、基地に頼って生活している人はたくさんいて、返還したら食べていかれないと反戦地主を批判しました、集団自決をした話は信用できない、自分で自分の命を絶てるはずがない、自分の伯母は自決から逃れてきたのだ、と喋りまくる。ひどい頭痛と孤独感に襲われ女性と別れ海岸へ急ぐ。海が見たい、早く、早く。

平和だ。目の前に船が通る。そして太陽の光がまっすぐな筋を海上に映し出す。緑の海藻が岩の上を覆っている。何か偉大なる力に守られていると実感。一人ぽっちじゃない。

平和がいい。人と争うのは嫌だ、と何も知らずに飛ぶ蝶を見てつくづく思う。何十年も前の戦争によって、今も、人が賛成派と反対派に分けられている。庶民の生活をことごとく踏みにじる『戦争』は、絶対に嫌だ！

次号25号は7月1日発行予定です。原稿締切りは6月4日必着にてお願ひします。

## 露宿ベン俱楽部短信

狂気のような体験を必死に客觀化しようと迫り来る葛藤の中、そこに一体どのような救いがあったのか？筆者の死と共に未完に終る「ヤマの幽霊」は、無限を求める静かに消えて行くブルックナー九番の最終和音をどこか彷彿させます。

辛い編集でした。

次号から、どこかのんびり何となくの「露宿」に戻りたいと思います。投稿、お願ひします。

# Rojuku

定期購読大募集

購読費・スポンサー費  
送り先  
郵便振替口座  
00160-6-190947  
「ろじゅく編集室」

## 露宿バックナンバー 有ります。

露宿バックナンバーは創刊号から（2号、4号、18号は売切れです）在庫があります。お求めはろじゅく編集室まで、郵便振替用紙、FAX、TEL、メールなどでご注文下さい。

「ろじゅく」

### [露宿定期購読の御案内]

毎号確実に読者のお手元に届けるために当方では定期購読を承っております。  
定期購読8回分 5000円（郵送費込み）  
定期購読4回分 2500円（郵送費込み）  
一回ごとの購入でも大歓迎。  
一冊は送料込みで660円となります。

### 申し込み方法

郵便振替用紙（00160-6-190947ろじゅく編集室）に定期購読もしくは継続購読とお書きになり、住所、氏名を明記の上送金して下さい（発行ごとに郵送します）。尚、郵便振替の他、切手での受け付けもしております。FAX、メールにても注文承り中。

まとめ買いはお安くなります。

2冊以上は送料無料、5冊2000円、10冊3500円、50冊15000円（いずれも送料込み）となります。

露宿 ROJUKUはココで買えます。

◆模索舎 東京都新宿区2-4-9 TEL/FAX 03-3352-3557 ◆TACO ché 東京都中野区中野5-5-2-15中野ブロードウェイ3階 TEL 03-5343-3010 FAX 03-5343-4010 ◆スペースかぼす 東京都新宿区大京町3新大京マンション304号 TEL 03-5367-5666 ◆新宿中央公園ポケットパーク（毎日曜午後6時から8時まで）TEL 090-3818-3450 ◆石手寺 愛媛県松山市石手2-9-21 TEL 089-977-0870 ◆ぐりん・びいす 宮城県仙台市青葉区立町18-12-104 TEL/FAX 022-213-6739

路上文芸総合雑誌「露宿（ROJUKU）」第24号 2003年5月1日発行（隔月刊）

主宰・笠井和明 編集/発行・ろじゅく編集室 〒170-0014 東京都豊島区池袋1-14-5-13  
TEL/FAX 03-3981-6746/090-3818-3450（笠井）

Eメール・rojuku@d9.dion.ne.jp URL・<http://www.d9.dion.ne.jp/~rojuku/>  
郵便振替口座 00160-6-190947 加入者名「ろじゅく編集室」

販売協力・新宿連絡会、露宿ペン俱楽部 印刷・株式会社ラジオグラフィー